

学 校 用 オ ル ガ ン

SE7000

取 扱 説 明 書

YAMAHA

ごあいさつ

このたびは、ヤマハ学校用オルガン SE-7000 をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
学校用オルガン SE-7000 は、楽器づくりの経験豊かなヤマハが最新の技術を駆使し、指導用オルガンの一層の充実をめざして開発した画期的なオルガンです。
ご使用にあたりましては、この取扱説明書を一読のうえ、SE-7000 の機能を充分にご活用いただき、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。
お読みになった後は大切に保管してください。わからないことや不具合が生じた時、きっとお役に立ちます。

主な特長

- 美しくクリアな音色**
音づくりにヤマハ独自の AWM2 音源方式を採用。
美しくクリアな音色を実現しました。
- DOC、XG 音色を採用した多彩な音色**
内蔵音色はパネル音色、DOC 音色、GM 音色合わせて計 205 音色。また、市販の XG 音色対応のデータ曲集も再生することができます。
- 演奏の幅を広げるキーボードパーカッション**
ドラム、シンバル、トライアングルなど、48 音色のキーボードパーカッションを採用。
- シーケンサー、ディスクレコーダーを内蔵**
3.5 インチフロッピーディスクを使用して、演奏を録音・再生することができます。また、6 つのパートボタンを使って、最大 16トラックまでの重ね録音にも対応しています。
- E-SEQ ファイル、SMF ファイルに対応**
さまざまなフォーマットのディスクを再生できます。
- 教室の隅々まで届く豊かな音量**
アンプは 50W。30cm ウーハーと 6cm ツィーターの 2 ウェイスピーカーと相まって、背面から豊かな音が響きます。また、鍵盤側にもモニタースピーカーを搭載し、演奏者もバランスのよい音を聞きながら弾くことができます。
- メトロノーム、リズム、タッチレスポンス、リモコンなど豊富な機能を搭載**
さまざまな場面での活用を考え、便利な機能を搭載しました。

仕様

音源	AWM2音源	コントロール	全体音量、再生/打楽器音量、移調、チューニング、リズム拍子、リズムテンポ、MIDI
同時発音数	最大32音	外部入出力	ライン入力、ライン出力、ヘッドホン、MIDI(IN, OUT, THRU)、サステインペダル
鍵盤	61鍵 Cスケール(5オクターブ)	ディスクレコーダー	テンポ(LED表示付)、曲番選択/早戻し、早送り(LED表示付)、再生/停止、一時停止、録音、繰り返し、フォーマット、ディスクアクセス、パート(パート1、パート2、パート3、パート4、パート5、パート6、再生パート音量)
音色	全205音色 ■パネル音色 16音色 ピアノ、リードオルガン、パイプオルガン、ハーブシコード、グロッケン、箏、フルート、オーボエ、クラリネット、トランペット、ホルン、チューバ、バイオリン、ストリングス、コントラバス、ピッチカートバス ■DOC音色※1 61音色 ■GM音色※2 128音色 XG音色※3 480音色(GM音色 128音色を含む) *演奏にはパネル音色、DOC音色、GM音色計205音色に加え、外部ディスクによりXG音色での再生もできます。	メインアンプ	最大定格出力 50W
打楽器音色	48音色	スピーカー	ウーハー 30cm(8Ω)、ツィーター 6cm(16Ω)×2
リズム	■10種類+メトロノーム 8ビート、16ビート、シャッフル、スウィング、マーチ、マーチ(6/8)、ワルツ、サンバ、ビギン、ボサノバ、イントロ/エンディング	定格電圧	AC 100V
効果	ビブラート、サステイン、リバブ、タッチレスポンス	周波数	50Hz/60Hz
		消費電力	38W
		寸法	間口 93.6cm、奥行 46.0cm、高さ 84.3cm
		重量	53kg
		仕上げ	グレーPVCシート貼り
		標準装備品	椅子(SC-200)、リモコン(単三乾電池2本)、デモディスク(2枚)

※1 DOC

SE-7000、5000用ソフトやクラピノーバ用(ディスクオーケストラコレクション)ソフトを再生する為の音色です。
SE-5000と互換性があります。DOC音色を使って録音した曲は、SE-5000で演奏することができます。

※2 GM (General MIDI)

General MIDIは演奏データの一定の基準で、GMと略称と呼ばれています。市販のGM対応のデータ曲集を再生することができます。

※3 XG

XGはGMを大幅に拡張し、表現力豊かなデータ再生、編集を実現するヤマハ独自の規格です。市販のXG対応のデータ曲集を再生することができます。

目次

安全上のご注意	4
各部の名称	6
操作と機能	7
●演奏機能	7
●リズム機能	12
●外部入出力端子	14
ディスクレコーダーの操作	15
●フロッピーディスクについて	15
●フォーマットのしかた	16
●再生できるディスク	17
●再生のしかた	17
●再生パートの選択	18
●繰り返し再生のしかた	19
●録音のしくみ	20
●録音のしかた	21
リモコン操作について	24
MIDI について	25
●MIDI とは	25
●接続方法について	25
●楽しみ方の例	25
●MIDI 送信チャンネルの設定	26
●MIDI クロック外部／内部の選択	26
●ブレスコントロール受信の ON/OFF	27
●鍵盤トランスポーズの ON/OFF	27
エラーメッセージについて	28
故障とお考えになる前に	29
付 録	30
●音色一覧表	30
●リズム音源キーコード対応表	31
●MIDI インプリメンテーションチャート	32
保証とサービスについて	34
●ヤマハサービスネットワーク	35

安全上のご注意

各部の名称

操作と機能

ディスクレコーダーの操作

リモコン操作について

MIDI について

エラーメッセージについて

故障とお考えになる前に

付 録

保証とサービスについて

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

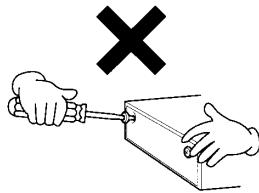
- ⚠ 記号は、危険、警告または注意を示します。
- 🚫 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。
- 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

*お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠ 警告 この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。

- 🚫 この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



- 🚫 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。

- 🔌 使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源ボタンを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⚠ 電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

- 🔌 手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

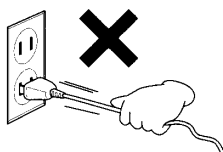
- ⚠ 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

- ⚠ リモコンの電池は十一の表示に従って正しい位置に挿入する。また、電池交換は同じメーカー、同じ種類の電池を2本同時に交換する。ショート、発熱のおそれがあります。

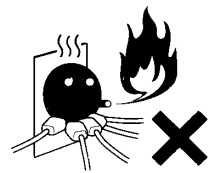
⚠ 注意 この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

- 🚫 電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- ⚠ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。



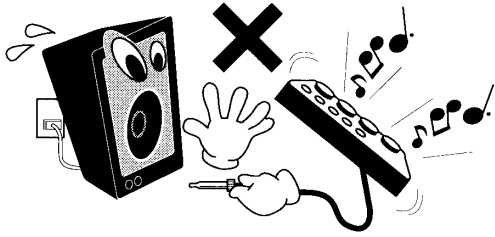
- 🚫 タコ足配線をしない。コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。



- 🚫 電源コードやプラグがいたんだときは使用しない。また、長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。

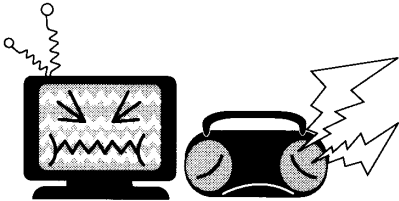
注意 この表示内容を見逃した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

! 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。



⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



⊘ 不安定な場所に置かない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

! 2人で静かに運びましょう。
本体を移動する時には、引きずったり、押したりしないで、背面の持ち運び用取手を持ち、大人2人以上で静かに運びましょう。

! 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。
コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。

⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。

⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損する原因になります。

⊘ 本体を壁につけない。
換気が十分でないと、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。

⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



! オルガン付属の専用椅子、または別にお求めのオルガン椅子は、オルガンの演奏用以外に使用しない。

- オルガンの椅子を遊び用具や踏み台にすると、椅子が転倒したり壊れたりして、事故につながるおそれがあります。
- 同時に二人以上で使用すると、姿勢や椅子に無理が生じ、事故につながるおそれがあります。オルガンの椅子は二人以上で使用しないでください。
- 椅子の脚はボルトで締め付けてあります。長い間使用していると、ゆるんでくる場合がありますので、ときどき締め直してお使いください。

⊘ ディスクレコーダーのディスク挿入口にディスク以外の物を差し込まない。

ディスク挿入口には、3.5インチフロッピーディスク以外の物を挿入しないでください。ディスクドライブが正常に作動しなくなるおそれがあります。
フロッピーディスク及びフロッピーディスクドライブはゴミやほこりを嫌います。フロッピーディスクが挿入されたままですと、ほこりが入りやすくなりますので、ご使用後は、フロッピーディスクドライブからディスクを抜きましょう。

⊘ リモコンの乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。

⊘ リモコン内部で乾電池の液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

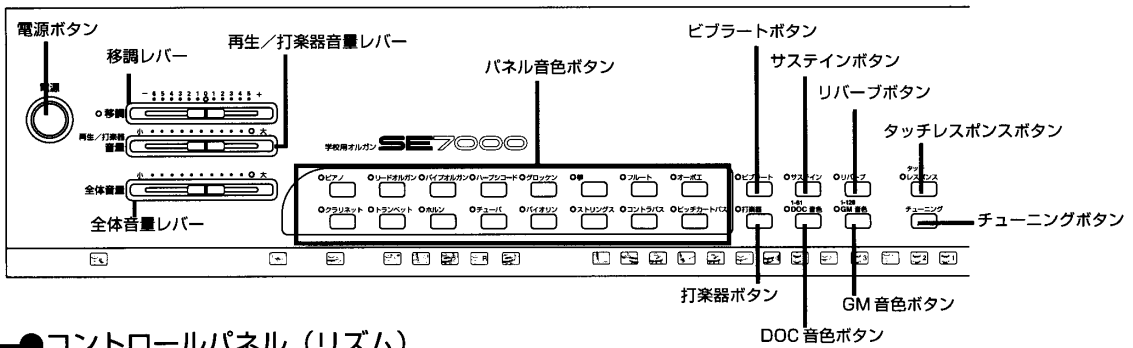
長時間使用しないときは、必ず電源を切り、電源プラグを抜いてください。

*この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

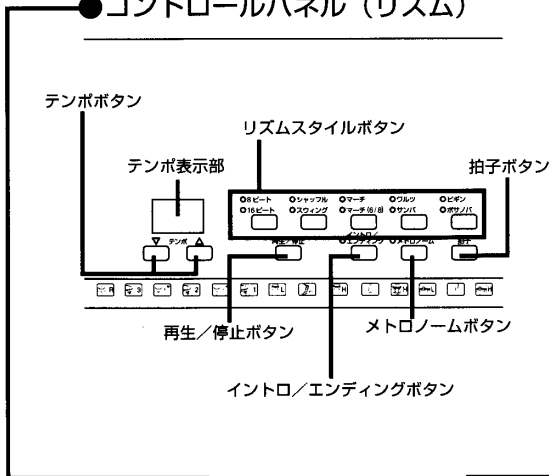
各部の名称

各部の名称

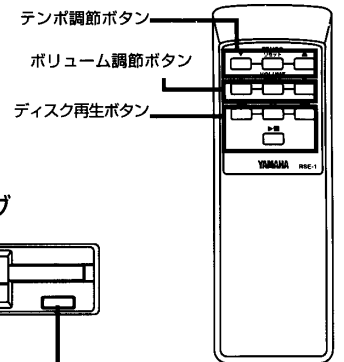
●コントロールパネル (音色)



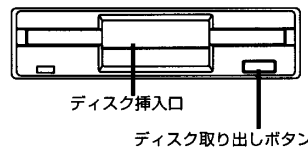
●コントロールパネル (リズム)



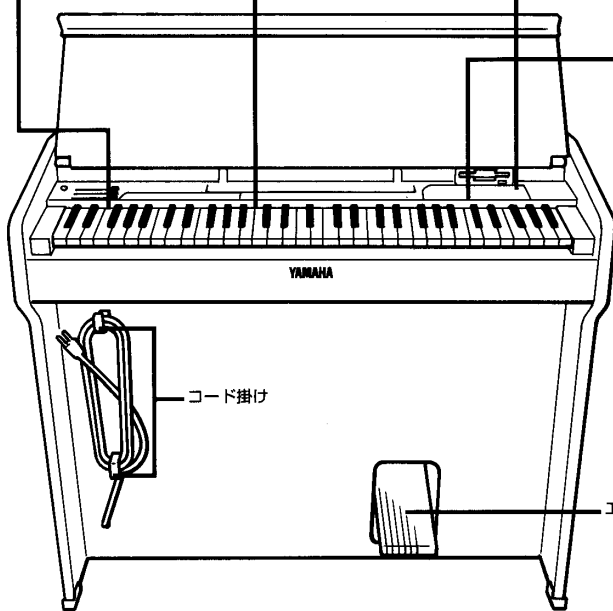
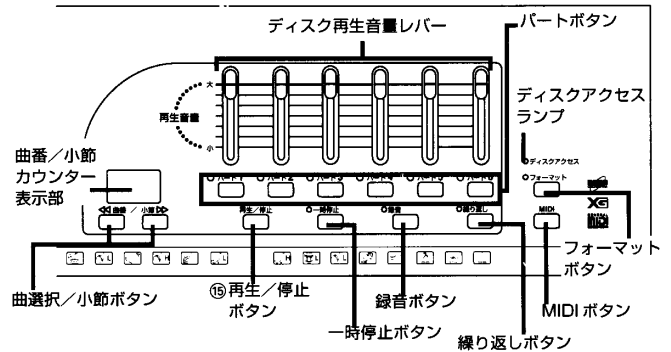
●リモコン



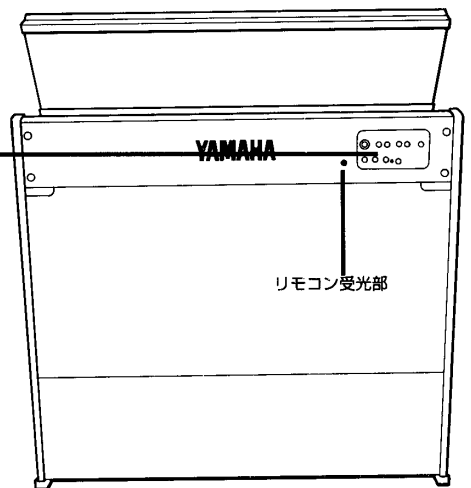
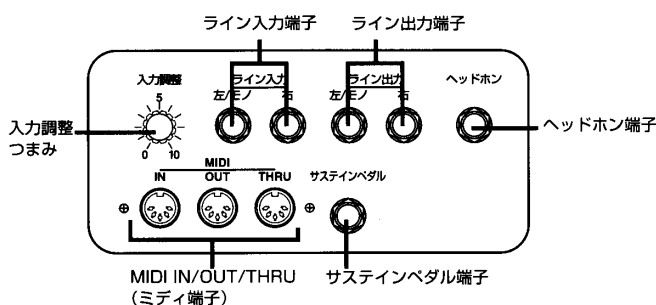
●ディスクドライブ



●ディスクレコーダーコントロールパネル

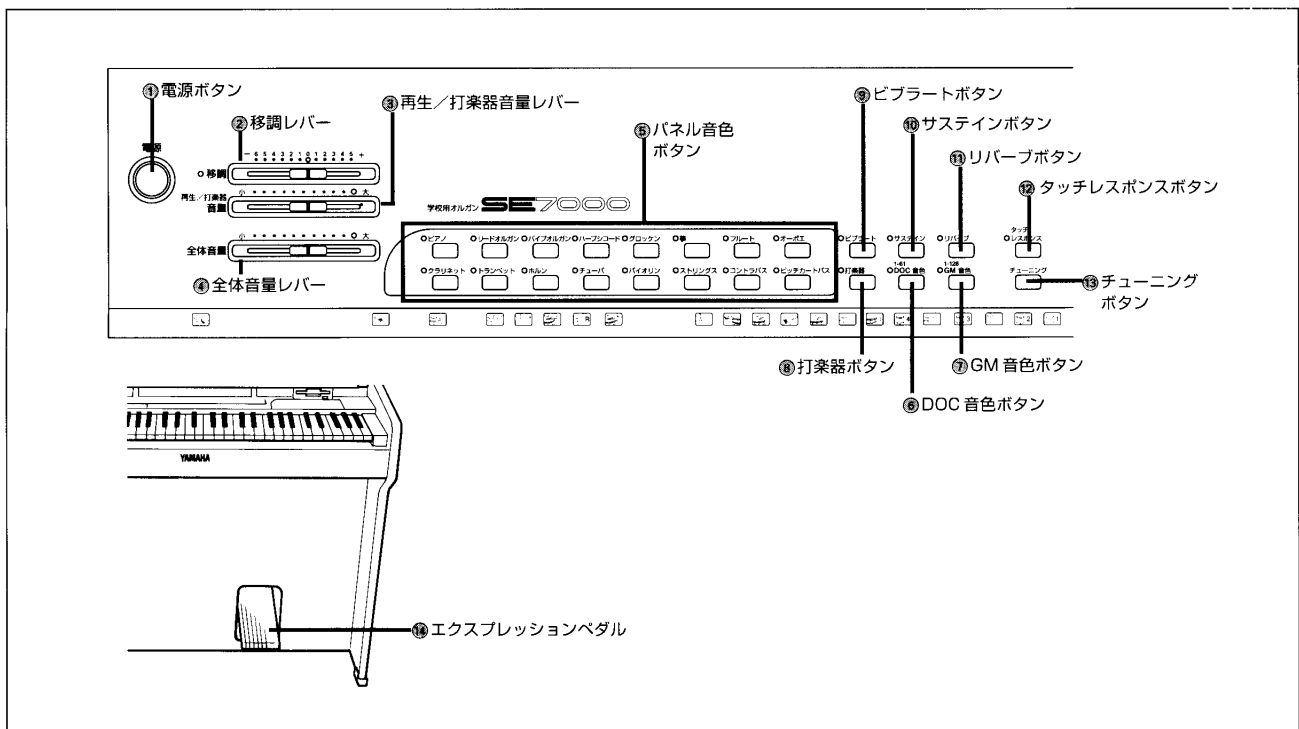


●外部入出力端子



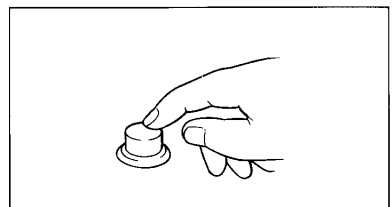
操作と機能

●演奏機能



① 電源ボタン

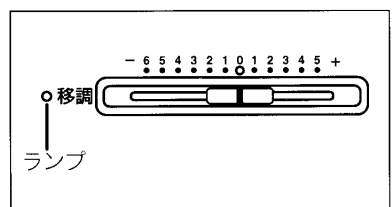
電源ボタンを押すと、パネル音色ボタン [ピアノ]、[タッチレスポンス] ボタン、[リバーブ] ボタン、リズムスタイル [8ビート] ボタンのランプが点灯します。電源を入れて3秒程すると演奏可能な状態になります。



② 移調レバー

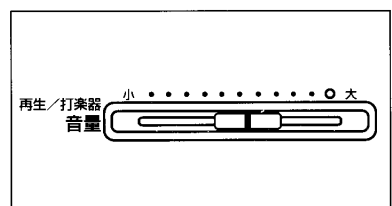
音程を変化させるときに使います。1目盛で半音ずつ変化します。レバーを“0”にセットするとランプは消えます。レバーを動かすとランプが点灯し、その目盛りの値で移調されます。

※ 電源ボタンを押した直後は、レバーが“0”以外の位置にセットされていてもランプは消えており、移調されていません。



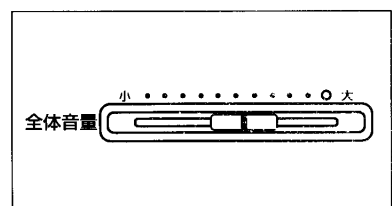
③ 再生/打楽器音量レバー

ディスクレコーダーでの再生や打楽器、メトロノームの音量をコントロールするレバーです。レバーを右にスライドさせるほど音は大きくなります。



④ 全体音量レバー

全体の音量をコントロールするレバーです。エクスプレッションペダルをいっぱい踏み込んだ時の最大の音量は、このレバーの位置により決まります。レバーを右にスライドさせるほど音は大きくなります。

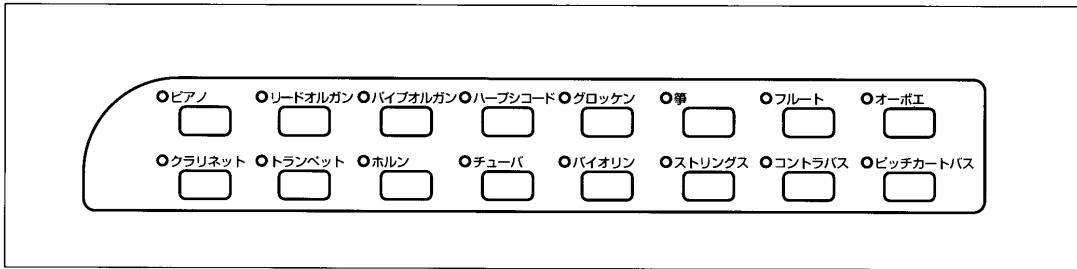


音色ボタン

音色を選ぶボタンです。SE-7000は演奏時の標準パネル音色16種類の他に、DOC（ディスクオーケストラコレクション）音色61種類、GM（ジェネラルミディ）音色128種類の計205種類の音色が選択できます。

⑤ パネル音色ボタン

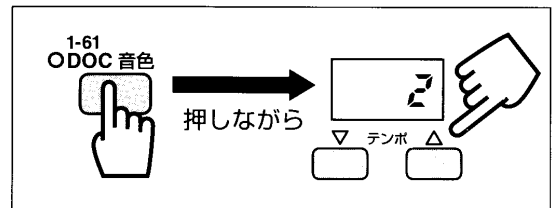
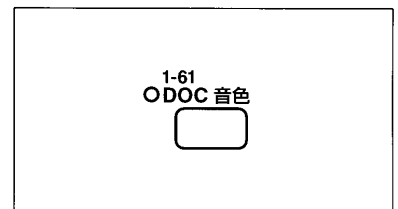
16種類のパネル音色を選ぶボタンです。各音色のボタンを押すと、ランプが点灯します。



⑥ DOC 音色ボタン

61種類のDOC音色を選ぶボタンです。[DOC 音色] ボタンを押すとボタンの上にあるランプが点灯し、テンポ表示部に音色番号「1」を表示します。[DOC 音色] ボタンを押しながらテンポボタン(注)を押して音色番号を選択すると、1～61の音色番号が表示されます。

(注) テンポボタンには、テンポの速さを変える役割のほかに、音色番号を変えるなどいくつかの役割があります。



DOC 音色一覧

音色番号	音色名	音色番号	音色名	音色番号	音色名	音色番号	音色名
1	ブラス	17	ビブラフォン	33	シンセストリングス	49	バイオリン (ハード)
2	トランペット	18	マリンバ	34	シンセコーラス	50	パイプオルガン
3	フレンチホルン	19	シンセブラス	35	ピアノ (メロウ)	51	サクソフォン (メロウ)
4	サクソフォン	20	シンセクリスタル	36	エレクトリックピアノ 2	52	エレキベース (ヘビー)
5	クラリネット	21	ティンパニ	37	ピアノ (ブライト)	53	フルート 2
6	オーボエ	22	ガットギター 1	38	フォークギター	54	バスーン
7	フルート 1	23	ジャズギター 1	39	バンジョー	55	チェンバーストリングス
8	アコーディオン	24	ロックギター 1	40	ピッチカート	56	ジャズオルガン 2
9	ストリングス	25	アップライトベース	41	ハーブ	57	ディストーションギター
10	バイオリン	26	エレキベース	42	クラピトーン	58	コスミック 1
11	フルオルガン	27	スラップベース	43	ロックギター 2	59	コスミック 2
12	ジャズオルガン 1	28	シンセベース	44	ミュートギター	60	コスミック 3
13	ピアノ	29	ミュートトランペット	45	アップライトベース (メロウ)	61	オーケストラヒット
14	エレクトリックピアノ 1	30	ハーモニカ	46	ジャズギター 2		
15	ハーブシコード	31	コーラス	47	ポップブラス		
16	チェレスタ	32	シンセウッド	48	ストリングス (メロウ)		

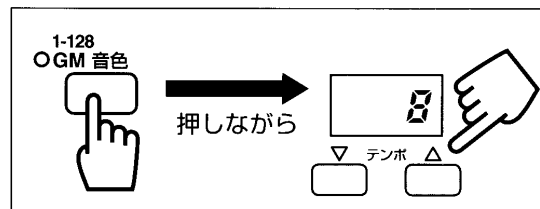
※フロッピーディスクの再生中は、フロッピーの再生する曲により音色の切り替えが限定されます。

■ DOC : パネル音色、DOC 音色のみ選べます。 ■ GM : GM 音色のみ選べます。

⑦ GM 音色ボタン

128種類のGM音色を選ぶボタンです。[GM音色] ボタンを押すとランプが点灯し、テンポカウンターに音色番号「1」を表示します。[GM音色] ボタンを押しながらテンポボタン(⑧)を押して音色番号を選択すると、1～128の音色番号が表示されます。

(注) テンポボタンには、テンポの速さを変える役割のほか、音色番号を変えるなどいくつかの役割があります。



GM 音色一覧

分類	音色番号	音色名	分類	音色番号	音色名	分類	音色番号	音色名	分類	音色番号	音色名
ピアノ系	1	グランドピアノ	ベース系	33	アコースティックベース	リード系	65	ソプラノサクソフォン	シンセエフェクト系	97	雨
	2	ブライトピアノ		34	フィンガーベース		66	アルトサクソフォン		98	サウンドトラック
	3	エレクトリックグランドピアノ		35	ピックベース		67	テナーサクソフォン		99	クリスタル
	4	ホンキートンクピアノ		36	フレットレスベース		68	バリトンサクソフォン		100	アトモスフィア
	5	エレクトリックピアノ1		37	スラップベース1		69	オーボエ		101	ブライトネス
	6	エレクトリックピアノ2		38	スラップベース2		70	イングリッシュホルン		102	ゴブリン
	7	ハーブシコード		39	シンセベース1		71	バスーン		103	エコー
	8	クラビ		40	シンセベース2		72	クラリネット		104	サイエンスフィクション
クロマチックパーカッション系	9	チェレスタ	ストリングス系	41	バイオリン	パイプ系	73	ピッコロ	エスニック系	105	シタール
	10	グロッケンシュビール		42	ビオラ		74	フルート		106	バンジョー
	11	ミュージックボックス		43	チェロ		75	リコーダー		107	三味線
	12	ビブラフォン		44	コントラバス		76	バンフルート		108	箏
	13	マリンバ		45	トレモロストリングス		77	ボトル		109	カリンバ
	14	シロフォン		46	ピッチカートストリングス		78	尺八		110	バグパイプ
	15	チューブラーベル		47	ハーブ		79	ホイッスル		111	フィドル
	16	ダルシマー		48	ティンパニ		80	オカリナ		112	シャナイ
オルガン系	17	ドローパーオルガン	アンサンブル系	49	ストリングスアンサンブル1	シンセリード系	81	矩形波リード	パーカッション系	113	ティンクルベル
	18	パーカッションオルガン		50	ストリングスアンサンブル2		82	ノコギリ波リード		114	アゴゴ
	19	ロックオルガン		51	シンセストリングス1		83	カリオペリード		115	スチールドラム
	20	チャーチオルガン		52	シンセストリングス2		84	チフリード		116	ウッドブロック
	21	リードオルガン		53	コーラス アー		85	チャランリード		117	和太鼓
	22	アコーディオン		54	ボイス ウー		86	ボイスリード		118	メロディックタム
	23	ハーモニカ		55	シンセボイス		87	5度リード		119	シンセドラム
	24	タンゴアコーディオン		56	オーケストラヒット		88	ベース&リード		120	リバースシンバル
ギター系	25	ナイロンギター	ブラス系	57	トランペット	シンセパッド系	89	ニューエイジパッド	サウンドエフェクト系	121	フレットノイズ
	26	スチールギター		58	トロンボーン		90	ウォームパッド		122	プレスノイズ
	27	ジャズギター		59	チューバ		91	ポリシンセパッド		123	海辺
	28	クリーンギター		60	ミュートトランペット		92	クワイアパッド		124	鳥のさえずり
	29	ミュートギター		61	フレンチホルン		93	ポウドパッド		125	電話のベル
	30	オーバードライブギター		62	ブラスセクション		94	メタリックパッド		126	ヘリコプター
	31	ディストーションギター		63	シンセプラス1		95	ヘイロパッド		127	拍手
	32	ギターハーモニクス		64	シンセプラス2		96	スweepパッド		128	銃声

※フロッピーディスクの再生中は、フロッピーの再生する曲により音色の切り替えが限定されます。

■ DOC : パネル音色、DOC 音色のみ選べます。 ■ GM : GM 音色のみ選べます。

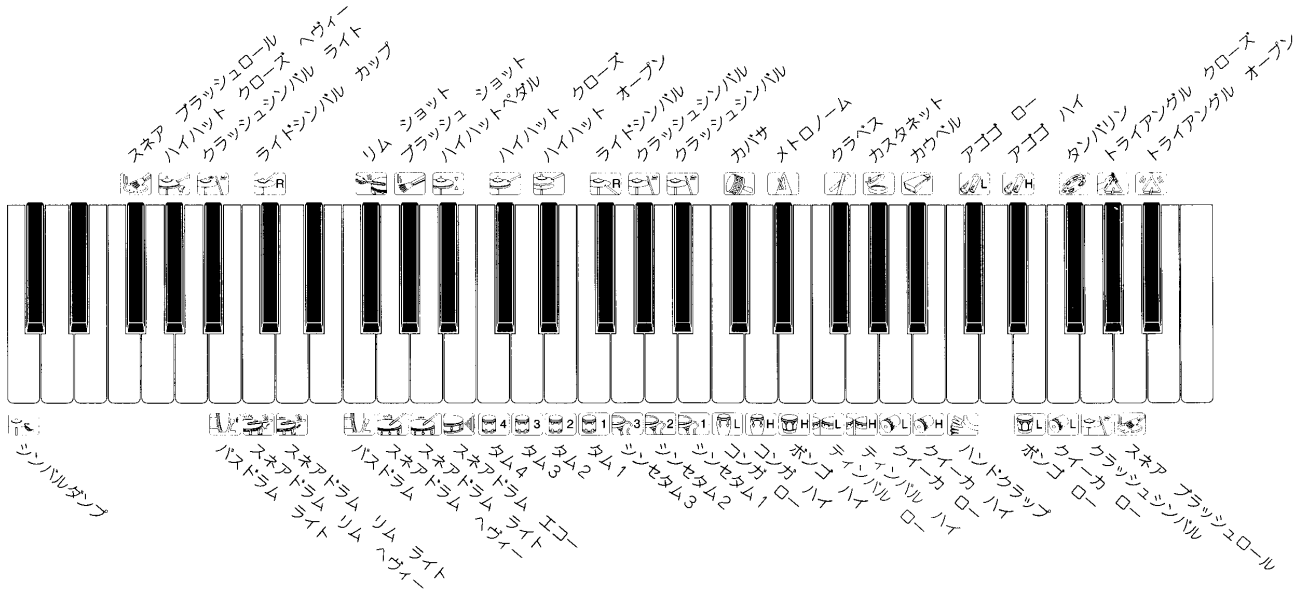
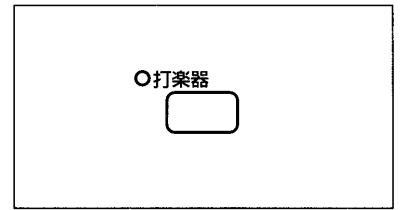
⑧ 打楽器ボタン

[打楽器] のボタンを押すと、キーボードで打楽器演奏が可能な状態になります。打楽器はドラム、シンバル、トライアングルなど48種類です。鍵盤F#1～A#5に鍵盤上のイラストの打楽器が割り当てられます。

※「クラッシュシンバル ライト」「クラッシュシンバル」「ライドシンバル カップ」「ライドシンバル」を演奏するとき、鍵盤を押した後に [シンバル ダンプ] を押すとシンバルの音がカットされます。

※ GM 音色で演奏しているときは【シンバルダンプ】は無効になります。

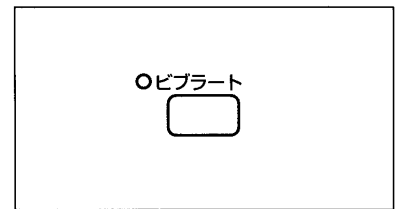
※ 打楽器音量は、エクスプレッションペダルで変更することができません。



⑨ ビブラートボタン

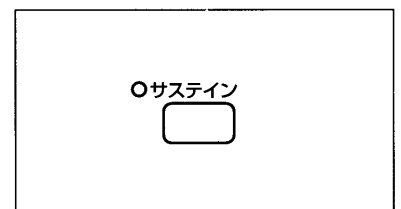
音が揺れる効果を加えます。ボタンを押すごとにON/OFFが切り替わり、ONの時にランプが点灯します。

※ パネル音色ボタン【フルート】【オーボエ】【バイオリン】【コントラバス】を選ぶと自動的に【ビブラート】ボタンはONになります。



⑩ サステインボタン

鍵盤から指を離れたあと、音に余韻を持たせる効果です。ボタンを押すごとにON/OFFが切り替わり、ONの時にランプが点灯します。



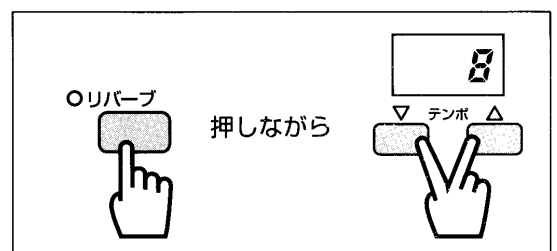
⑪ リバーブボタン

臨場感のある広がりを与える効果です。ボタンを押すごとにON/OFFが切り替わり、ONの時にランプが点灯します。

[リバーブ] ボタンを押しながらテンポボタンでリバーブの深さを1～15の範囲で設定することができます。

※ 電源ON時には「8」に設定されています。

※ [リバーブ] ボタンを押しながらテンポボタンを同時に押すと「8」の設定に戻ります。



⑫ タッチレスポンスボタン

鍵盤を押さえるタッチの強弱によって音量と音色を変化させる効果です。ボタンはON/OFFで、ONの時にランプが点灯します。

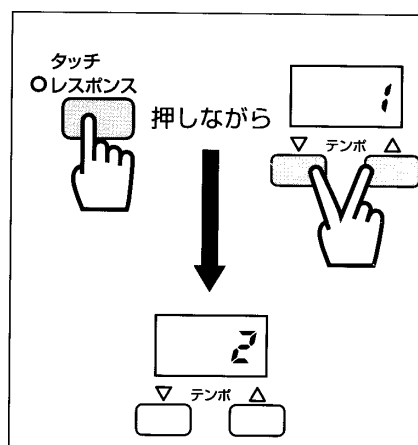
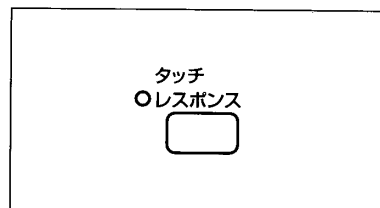
また、[タッチレスポンス] ボタンを押しながらテンポボタンを押すと1~3の範囲でタッチレスポンスの感度が設定できます。数が大きいほどタッチレスポンスが強くなります。

※ [リードオルガン] [パイプオルガン] [ハーブシコード] 以外のパネル音色を選ぶと、自動的に [タッチレスポンス] ボタンが点灯します。

※ タッチレスポンスの感度を変更した時のみ、テンポ表示部に1~3の数字が表示されます。

※ 電源ON時には「2」に設定されています。

※ [タッチレスポンス] ボタンを押しながら、テンポボタンを同時に押すと、「2」の設定に戻ります。

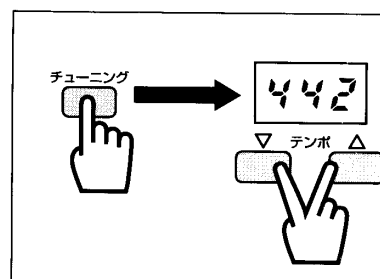
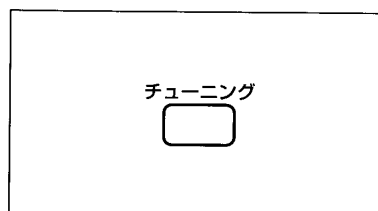


⑬ チューニングボタン

音の高さを調節するボタンです。[チューニング] ボタンを押しながらテンポボタンを押すとA = 438Hz (ヘルツ) から445Hz (ヘルツ) の間で変更できます。[チューニング] ボタンを押している間、リズム操作パネルのテンポ表示部にA3の周波数を表示します。

※ 電源ON時には442Hz (ヘルツ) に設定されています。

※ [チューニング] ボタンを押しながらテンポボタンを同時に押すと、442Hz (ヘルツ) に戻ります。

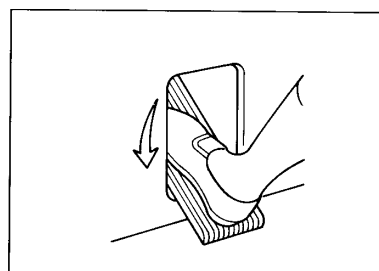


⑭ エクスプレッションペダル

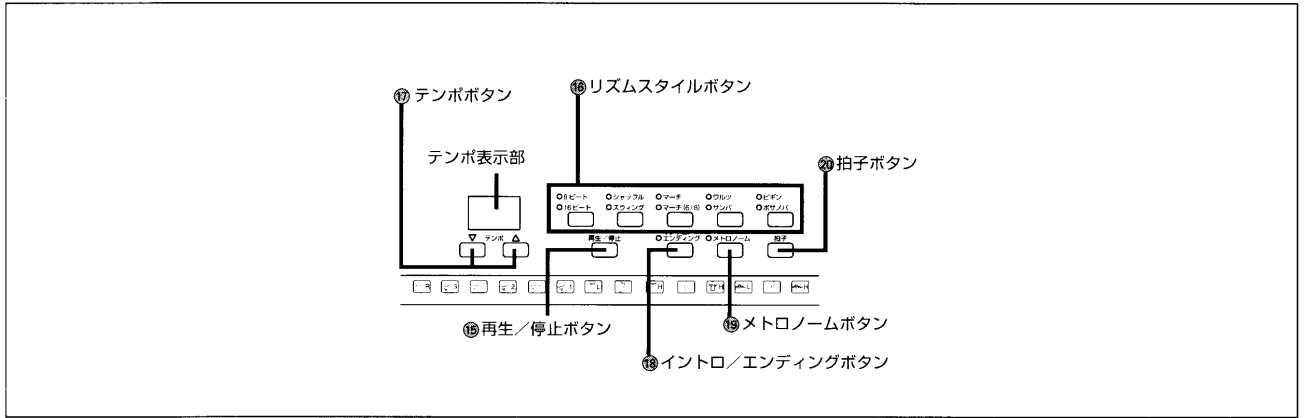
音量をコントロールするペダルです。踏み込む深さによって音量をコントロールできますので、演奏中、音に強弱をつけることができます。音の大きさは、音量レバーでセットした位置が最大音量となります。

※ ディスクレコーダーで再生中の音量はエクスプレッションペダルでは変化しません。

※ エクスプレッションペダルで打楽器の音量を変えることはできません。



●リズム機能



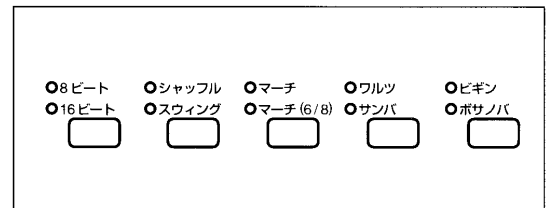
⑮ 再生/停止ボタン

リズムを再生/停止するボタンです。1回押すとリズムが再生され、もう1度押すとリズムが停止します。



⑯ リズムスタイルボタン

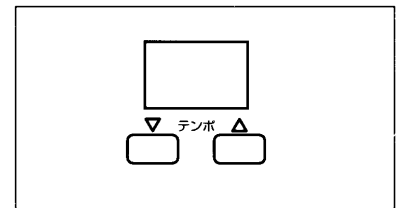
10種類のリズムスタイルを選ぶボタンです。1つのリズムスタイルボタンに2つのリズムスタイルが入っています。1回押すと上に表示されたリズム、もう1度同じボタンを押すと下に表示されたリズムが選べます。選択されたリズムはランプが点灯します。



※ リズムが鳴っているときに別のリズムスタイルボタンを押すと、新たに選んだリズムのランプが点滅し、次の小節から新しいリズムに変わります。

⑰ テンポボタン

リズムのテンポを♩=32~280の間で変えるボタンです。テンポ [▲] ボタンを押すとテンポが早くなりテンポ [▼] ボタンを押すとテンポが遅くなります。



テンポは、ディスクレコーダーでの録音のとき記録されます。

よって、再生時には記録されたテンポスピードで演奏されます。

※ テンポはディスクレコーダーでの録音/再生のときも、[▼]と[▲]ボタンを押して自由に変わることができます。

※ 10種類のリズムスタイル各々に標準テンポが設定されています。テンポ [▼] と [▲] ボタンをいっしょに押しと各リズムの標準テンポに戻ります。

リズムスタイル初期設定スピード

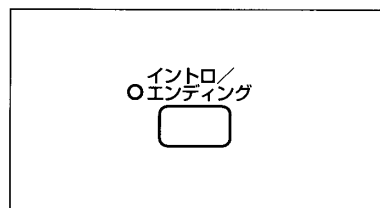
リズムスタイル名	標準テンポ	リズムスタイル名	標準テンポ
8ビート	124	マーチ (6/8)	132
16ビート	120	ワルツ	182
シャッフル	125	サンバ	108
スウィング	116	ビギン	112
マーチ	120	ボサノバ	122

⑱ イントロ／エンディングボタン

リズムの始まりにイントロパターンを、終わりにエンディングパターンをつけることができます。1回押すとイントロスタート待機になり、もう一度押すとイントロパターン待機が解除されます。

イントロパターン・エンディングパターン待機中はランプが点滅し、イントロパターン・エンディングパターン再生中はランプが点灯します。

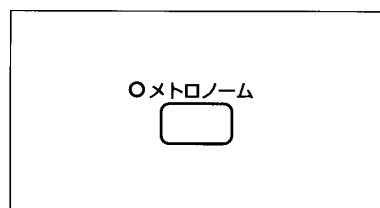
- [イントロ／エンディング] ボタンを押すと、イントロパターンが待機状態になります。
- リズムの再生中に [イントロ／エンディング] ボタンを押すと、演奏中の小節を再生後にエンディングパターンが鳴り、リズムがストップします。
- ※ イントロパターン再生中に [イントロ／エンディング] ボタンを押すと、イントロパターン再生後にエンディングパターンを再生して、リズムがストップします。
- ※ イントロパターン再生中にリズムスタイルを変更すると、イントロパターン再生後に選んだスタイルのリズムパターンを再生します。
- ※ エンディングパターン再生中に [イントロ／エンディング] ボタン、または別のリズムスタイルボタンを押しても演奏中のリズムスタイルは変わりません。



⑲ メトロノームボタン

メトロノームを鳴らすボタンです。1回押すとランプが点灯しメトロノームがスタートします。もう一度押すとランプが消えメトロノームがストップします。メトロノームの音量は再生／打楽器音量で調節します。

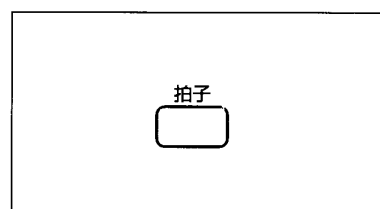
- リズムがストップしている時に [メトロノーム] ボタンを押すと、テンポ表示部に表示されているテンポと設定されている拍子でメトロノーム音が鳴ります。
- リズムが鳴っている時に [メトロノーム] ボタンを押すと、再生しているリズムのテンポと拍子に合わせてメトロノーム音が鳴ります。
- ※ [メトロノーム] がONの場合、リズムが鳴っている時にリズムをストップさせてもメトロノームは止まりません。



⑳ 拍子ボタン

メトロノームの拍子を1拍子～6拍子の間で切り替えるボタンです。電源ON時は4拍子に設定されています。[拍子] ボタンを押しながらテンポ [▲] ボタンを押すと拍子数が増え、テンポ [▼] ボタンを押すと拍子数が減ります。

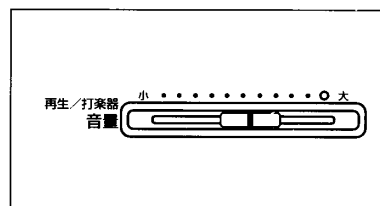
なお、[拍子] ボタンを押しながらテンポ [▼] と [▲] ボタンを同時に押すと4拍子に戻ります。



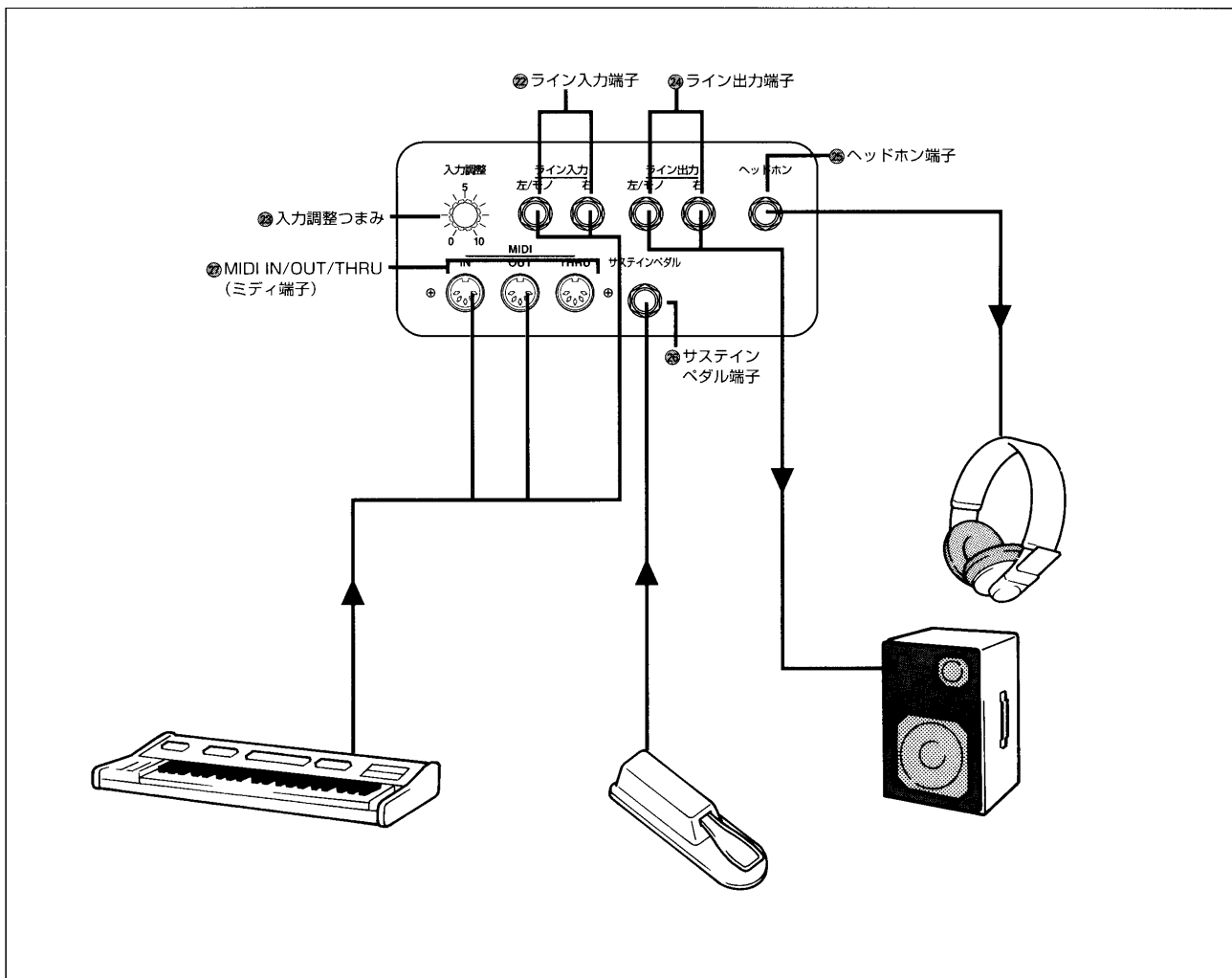
リズム音量の調節

リズムの音量は [再生／打楽器音量] レバーで調節します。(→7ページ③)

右にスライドさせるほど音は大きくなります。



●外部入出力端子



② ライン入力端子

他の電子楽器等の音を SE-7000 のスピーカーから出したいときに使います。

③ 入力調整つまみ

ライン入力の音量を調整します。右に回すほど入力される音量が大きくなります。

⑧ ライン出力端子

他の機器に SE-7000 の音を入力したい時に使います。アンプ内蔵スピーカーに接続して、より迫力のある演奏ができます。

※ ライン出力端子とライン入力端子を同時にテープレコーダーに接続しないでください。故障の原因になる場合があります。

⑩ ヘッドホン端子

ヘッドホンに接続する端子です。ヘッドホン使用時には、SE-7000 本体のスピーカーからは音が出なくなります。

⑥ サステインペダル端子

FC-4、FC-5等のフットスイッチを接続すると、サステインの ON、OFF をコントロールすることができます。フットスイッチを踏んでいる間だけ、パネルのサステインランプが点灯し、サステイン効果がかかります。

⑦ MIDI IN/OUT/THRU [ミディ端子]

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、デジタル電子楽器の世界統一規格です。別売の MIDI ケーブルを使って、MIDI 対応のシンセサイザーやシーケンサーなどと接続すれば、アンサンブルなど多彩な演奏ができます。

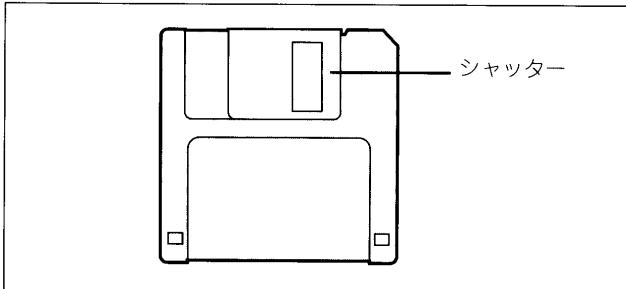
※ アンサンブルオルガン DE-637S と接続し、SE-7000 でアンサンブルオルガンの演奏を録音することができます。

ディスクレコーダーの操作

●フロッピーディスクについて

① フロッピーディスクの規格について

SE-7000 で録音・再生に使用できるフロッピーディスクは、2DD・2HDの3.5インチフロッピーディスク（推奨品：ヤマハ・YFD-2DD、YFD-2HD）です。

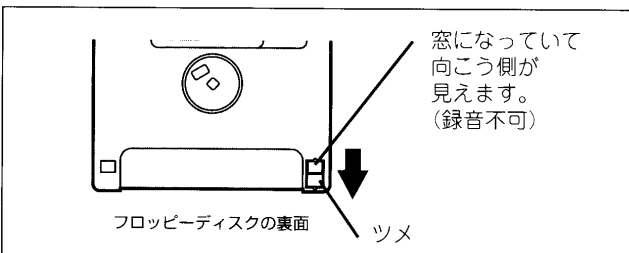


② フロッピーディスクの取り扱いについて

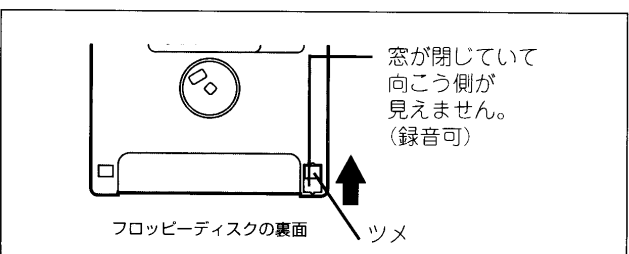
- フロッピーディスクのシャッターをスライドさせて磁性体面に触れないでください。また、煙やスプレーを吹きかけたりしないでください。磁性体面に汚れが付着したり、傷がつくと使用不可能になることがあります。
- ホコリの少ない場所でご使用ください。
- テレビやラジオ、スピーカーなど、磁気を帯びたものに近づけないでください。
- 温度条件は4℃～52℃です。4℃以下や52℃以上になる場所に保管しないでください。
- シャッターが上下に開いているような変形したフロッピーディスクは使用しないでください。ディスクレコーダーが壊れたり、フロッピーディスクが取り出せなくなることがあります。

③ 録音内容の保護について

大切な録音内容を誤って消さないために、フロッピーディスクのツメを図の様スライドしておく、再録音ができなくなります。この状態を「プロテクト」といい、再生のみできるようになります。



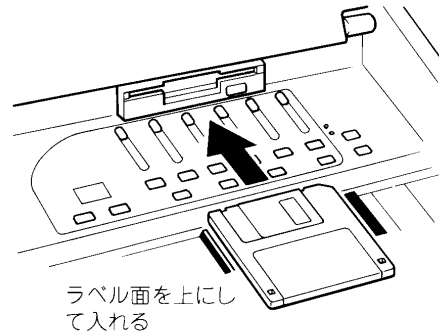
再び録音したい場合は、ツメを戻せば再び録音できます。



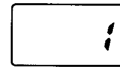
④ フロッピーの出し入れ

1. 入れかた

図のようにラベル面を上にし、「カチャ」と音がするまでしっかり入れます。

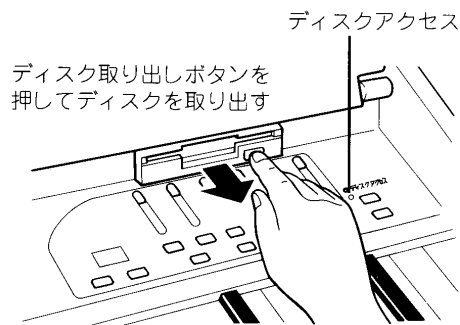


【曲番／小節】カウンターに曲番「1」を表示します。

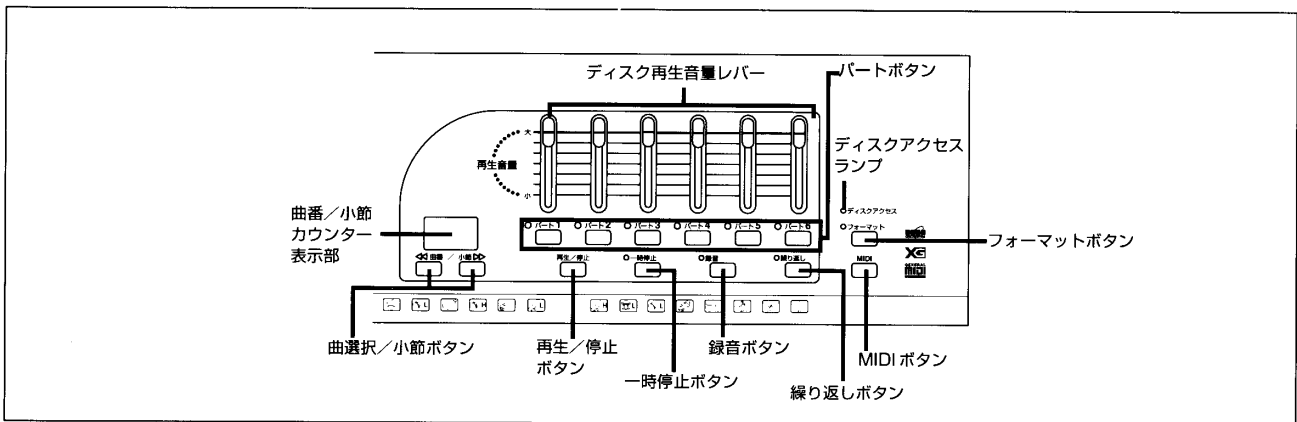


2. 取り出しかた

【ディスクアクセス】のランプが消えていることを確認した上で、ディスク取り出しボタンを押して、ディスクを取り出します。



※録音中や再生中は、絶対にディスクを取り出さないでください。ディスクレコーダー右の【ディスクアクセス】ランプが点灯しているときにディスクを取り出すと、録音データが壊れる場合があります。



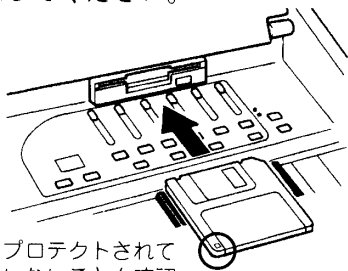
●フォーマットのしかた

新しいフロッピーディスクを使用する場合は「フォーマット（初期化）」と呼ばれる処理をしないと使うことができません。

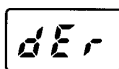
但し、すでに使われているフロッピーディスクをフォーマットすると、録音されていた全ての内容が消えてしまいますのでご注意ください。

1. 新しいフロッピーディスクを入れます

フロッピーディスクがプロテクトされていないことを確認してください。

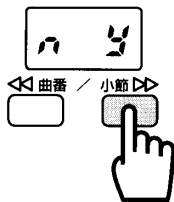


フォーマットされていない場合は「dEr」が表示されます。



2. [フォーマット] ボタンを押してください

[曲番/小節] カウンターに「n y」の表示が出ますので、曲番/小節 [▶] ボタンを押して「y」を選択してください。



[フォーマット] ボタンのランプが点滅から点灯にかわり、フォーマットを開始します。



[曲番/小節] カウンターは、トラックナンバーを「160」から「1」まで逆進表示します。



■フォーマットのキャンセル

「n y」の状態で [◀◀] または [フォーマット] ボタンを押してください。



3. 終了

フォーマットが終了すると、[曲番/小節] カウンターは「1」を表示し、[フォーマット] ボタンのランプが消えます。



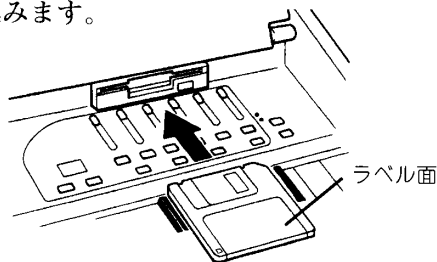
●再生できるディスク

- ◆ 学校用音楽教科書伴奏集
- ◆ 学校用音楽教科書主要歌唱曲集
- ◆ 学校用ピアノプレーヤー-学校用オルガンソフト (SE-7000 用)
- ◆ ディスクオーケストラコレクション
- ◆ XG 曲集 (スタンダード MIDI ファイル フォーマット 0)
- ◆ GM 曲集 (スタンダード MIDI ファイル フォーマット 0)

●再生のしかた

1. 再生フロッピーディスクを入れます

録音されているフロッピーをディスクドライブへ差し込みます。



再生されるパートのランプが点灯し、曲番号「1」が表示されます。



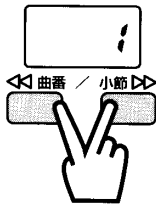
- ※ SMF (スタンダード MIDI ファイル) 形式のフロッピーは、すべてのパートランプが点灯します。
- ※ フロッピーディスクをディスクレコーダーに入れると、パネル音色ボタンは操作できない場合があります。

2. 曲番選択

曲番 / 小節の [◀◀] または [▶▶] ボタンを押して聞きたい曲番を選択します。

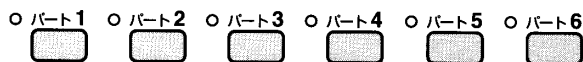


※ 曲番 / 小節の [◀◀] または [▶▶] ボタンを同時に押すと、曲番号「1」に戻ります。



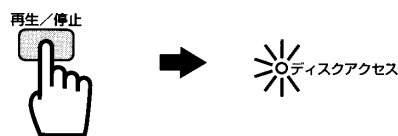
3. 再生パート選択

[パート 1] から [パート 6] ボタンを押して、再生パートを ON/OFF できます。ランプの点灯しているパートが演奏されます。(詳しくは P. 18 をご覧ください)



4. [再生 / 停止] ボタンを押します

ディスクの読み込みが始まると、[曲番 / 小節] カウンターに小節数「1」が表示され、ディスクアクセスが点灯し 1 曲目の再生が始まります。



再生中に曲番 / 小節の [◀◀] [▶▶] ボタンを押すと、曲の早送り、早戻しができます。



- ※ [▶▶] ボタンを押すと演奏内容を早送りで聞かことができます。しかし、[◀◀] ボタンを押して早戻しをするときは聞かできませんので、[曲番 / 小節] カウンターで確認してください。
- ※ 早送りで演奏を聞く必要のない場合は、一時停止の状態ですべての [◀◀] ボタンを押します。[曲番 / 小節] カウンターが移動し、[再生 / 停止] ボタンを押した時点で表示されたところから再生します。
- ※ ディスク再生中でも、移調および鍵盤の音色選択ができます。

5. 一時停止

再生中に [一時停止] ボタンを押すと一時停止になり、もう一度押すと再生を始めます。



6. 終了

曲が終了すると自動的に停止状態になります。曲の途中で再生を止めたいときは [再生 / 停止] ボタンを押します。

[曲番 / 小節] カウンターは、再生していた曲番を表示します。

●再生パートの選択

[パート1] [パート2] [パート3] [パート4] [パート6] に割り当てられたトラック

○パート1 ○パート2 ○パート3 ○パート4 ○パート5 ○パート6

各パートボタンを押してON/OFFを選択してください。ランプの点灯しているパートが演奏されます。

※ パート5には複数のトラックが割り当てられています。

※ パート6はリズム専用トラックです。

[パート5] に割り当てられた複数のトラック

○パート1 ○パート2 ○パート3 ○パート4 ○パート5 ○パート6

[パート5] には複数のトラックが割り当てられています。[パート5] を押しながら [C#5] から [C6] の鍵盤を押すとトラックを選ぶことができます。[曲番/小節] カウンターには選択したトラックナンバーが表示されます。

と 5.

- 「.」表示なし → データは録音されていません。
- 「.」点滅 → OFF 再び鍵盤を押すとONになります。
- 「.」点灯 → ON 再び鍵盤を押すとOFFになります。

[C#5] ~ [C6] 各鍵盤の割り当てトラック番号

C # 5	トラック 5
D5	トラック 6
D # 5	トラック 7
E5	トラック 8
F5	トラック 9
F # 5	トラック 10
G5	トラック 11
G # 5	トラック 12
A5	トラック 13
A # 5	トラック 14
B5	トラック 15
C6	トラック 16

パートの再生音量調節

再生音量はパートボタン上の [再生音量] レバーで調節できます。

※ 通常は最大で使用してください。

各ファイル形式のトラック割り当て

	パート1	パート2	パート3	パート4	パート5	パート6
学校用オルガンソフト	トラック 4	トラック 5	トラック 6	トラック 7	トラック 1-3 8-10	トラック 15
DOC (ディスクオーケストラ) コレクション	右手パート	左手パート	トラック 3	トラック 4	トラック 5-10	トラック 15
SE7000で録音した E-SEQ ファイル	トラック 1	トラック 2	トラック 3	トラック 4	トラック 5-10	トラック 15
E-SEQ ファイル	トラック 1	トラック 2	トラック 3	トラック 4	トラック 5-14 16	トラック 15
スタンダードMIDI ファイル (GM、XG)	トラック 1	トラック 2	トラック 3	トラック 4	トラック 5-9 11-16	トラック 10

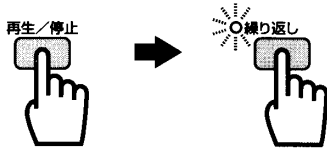
● 繰り返し再生のしかた

演奏を何回も繰り返して聞く時に使います。

■ 曲の一部を繰り返し聞く場合 (A-Bリピート)

1. 演奏の始めをセット

[再生/停止] ボタンを押して演奏をスタートさせ、繰り返したい演奏の始めで [繰り返し] ボタンを押します。[繰り返し] ボタンのランプが点滅します。



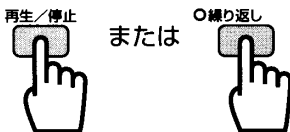
2. 演奏の終わりをセットし、繰り返し再生をスタート

繰り返したい演奏の終わりで再び [繰り返し] ボタンを押します。[繰り返し] ボタンのランプが点灯し、1小節カウント音が鳴った後に繰り返し演奏が始まります。



3. 終了

繰り返し再生を止めたいときは [再生/停止] ボタンまたは [繰り返し] ボタンを押します。[再生/停止] ボタンを押すと演奏が終わります。また、[繰り返し] ボタンを押すと [繰り返し] ボタンのランプが消え、曲の終わりまで演奏して停止します。



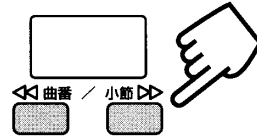
- 曲番/小節の [▶▶] ボタンで繰り返したい演奏の始め、終わりまで早送りすることができます。

※ ディスク再生中でも、移調および音色選択ができます。

■ 1曲を最初から繰り返し聞く場合

1. 曲番選択

曲番/小節の [◀◀][▶▶] ボタンで聞きたい曲番を選びます。



2. 繰り返しボタンを押します。

[繰り返し] ボタンのランプが点灯し、繰り返し再生の待機状態になります。



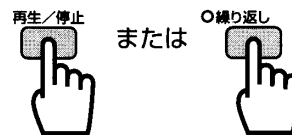
3. 繰り返し再生スタート

[再生/停止] ボタンを押すと、繰り返し再生が始まります。



4. 終了

繰り返し再生を止めたい時は [再生/停止] ボタンまたは [繰り返し] ボタンを押します。[再生/停止] ボタンを押すと演奏が終わります。また、[繰り返し] ボタンを押すと [繰り返し] ボタンのランプが消え、曲の終わりまで演奏して停止します。

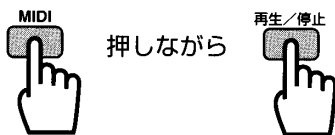


※ ディスク再生中でも、移調および音色選択ができます。

■全曲を最初から繰り返し聞く場合

1. 繰り返し再生スタート

[MIDI] ボタンを押しながら [再生/停止] ボタンを押してください。[曲番/小節] カウンターに「ALL」が表示され、フロッピーに録音されている全曲が連続再生されます。



ALL

※選ばれていた曲番から再生が始まります。

2. 終了

繰り返し再生を止めたい時は [再生/停止] ボタンを押します。



※ ディスク再生中でも、移調および音色選択ができます。

●録音のしくみ

SE-7000は、DOC 音色の場合は10トラック+リズム専用1トラック、GM 音色の場合は15トラック+リズム専用1トラックに録音ができます。

例えば、オーケストラのような複数の楽器によるアンサンブル曲も、1パートずつ順番に録音することができます。

DOC 音色の場合

パート1(トラック1)		
パート2(トラック2)		
パート3(トラック3)		
パート4(トラック4)		
パート5 (トラック5)		
(トラック6)		
(トラック7)		
パート5 (トラック8)		
(トラック9)		
(トラック10)		
パート6(トラック15) =リズムトラック		

※ DOC 音色による録音の場合は、リズムトラックは [トラック 15] に録音されます。

GM 音色の場合

パート1(トラック1)		
パート2(トラック2)		
パート3(トラック3)		
パート4(トラック4)		
パート5 (トラック5)		
(トラック6)		
(トラック7)		
パート5 (トラック8)		
(トラック9)		
(トラック11)		
(トラック12)		
(トラック13)		
(トラック14)		
(トラック15)		
パート6(トラック10) =リズムトラック		

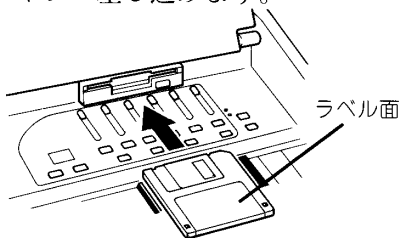
※ GM 音色による録音の場合は、リズムトラックは [トラック 10] に録音されます。

●録音のしかた

■曲を最初から録音する場合

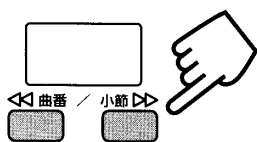
1. フロッピーディスクを入れます。

フォーマット済みのフロッピーディスクをディスクドライブへ差し込みます。



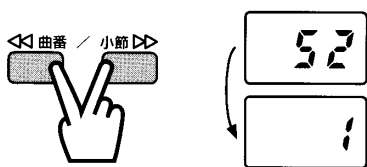
2. 曲番選択

曲番／小節の [◀▶] [▶▶] ボタンを押して、まだ録音されていない曲番を選びます。パートボタンのランプがすべて消えている曲番がまだ録音されていません。[曲番／小節] カウンターに現在選んでいる曲番が表示されます。



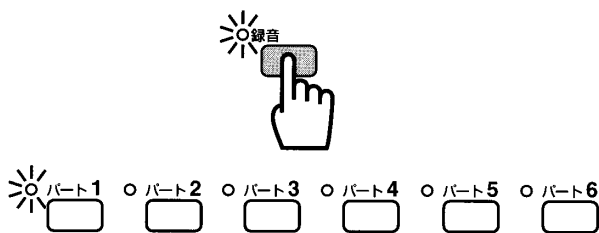
※ 曲番は、1～60番まであります。60番まで行き、そのまま [▶▶] のボタンを押すと「1」に戻ります。また、ボタンを押し続けると連続的に曲番が増減します。

※ [◀▶] [▶▶] 両方のボタンを同時に押すと「1」に戻ります。

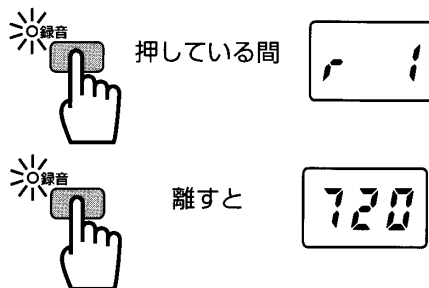


3. 録音準備

[録音] ボタンを押すと、[録音] ランプとまだ録音されていないパートのランプが赤に点灯し、録音待機状態になります。



[録音] ボタンを押している間は、[曲番／小節] カウンターに録音トラックが表示され、離すとディスクの残容量が表示されます。(単位 = Kbyte / 1Mbyte 以上の単位 = Mbyte)



※ 初めて録音するときは、[パート1] ランプが点灯します。

4. 録音パート選択

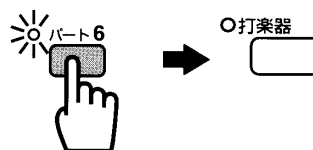
録音待機状態で [パート1] から [パート5] のいずれかを押すと、押したパートのランプが赤に点灯し、そのパートのトラックが録音待機状態になります。ランプが緑に点灯しているパートはすでに録音されていますが、そのパートを選び、録音し直すこともできます。



[パート5] を押しながら曲番／小節の [◀▶] [▶▶] ボタンを押すと、パート5にある複数のトラックの中から録音するトラックを選ぶことができます。選ばれたトラックの番号は [曲番／小節] カウンターに表示されます。



[パート6] を押すと、音色が [打楽器] に変わり、リズムトラックの録音待機状態になります。



※ この時、[リズムスタイル] ボタンを押して、リズムスタイルを選ぶこともできます。リズムスタイルを選んだ後に他のパートボタンを押すと、そのパートとパート6のランプが同時に赤く点灯し、リズムスタイルと鍵盤での演奏が同時に録音できます。

MIDI IN からの情報も録音できます。

※ 録音待機しているトラックと送信側のMIDIチャンネルを一致させる必要があります。

録音準備のとき、[MIDI] ボタンを押しながら [録音] ボタンを押すと、全部のパートランプが赤く点灯して、全てのトラックが録音待機状態になり、カウンターに「r r r」を表示します。MIDI INからの情報が一度に録音できます。

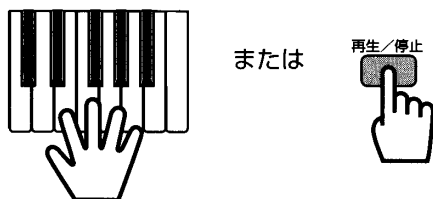


※ DE-637Sを接続して録音する場合などに利用できます。

※ この状態で録音を開始すると、押鍵情報、パネルボタン操作などの情報はトラック 1 に記録されます。

5. 録音

鍵盤を弾くか、または [再生/停止] ボタンを押すと、録音が始まり、[曲番/小節] カウンターに現在の小節番号を表示します。

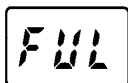


※ [再生/停止] ボタンを押して録音を始めると、2小節分のメトロノームが鳴ります。この間は鍵盤を弾いても録音されません。

※ メトロノームのカウント後、すぐに鍵盤を弾き録音をはじめると、タイミングが早すぎて1拍目の頭の音のみ録音できないことがあります。その場合は、メトロノームのカウント後、はじめの1小節は空けて録音をはじめてください。

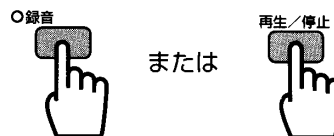
※ SE-7000で録音したデータを他の機器で再生するとき、SE-7000で録音内容が確認できていても1拍目の頭の音が鳴らないことがあります。その場合は、SE-7000で録音するときメトロノームのカウント後、はじめの1小節は空けて録音をはじめてください。

※ 録音中にディスクの残容量が0になり、これ以上録音ができなくなった場合は、[曲番/小節] カウンターに「FUL」を表示し、録音を終了します。終了した時点までのデータは保存されます。



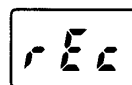
6. 終了

録音を終了する時は [録音] ボタンまたは [再生/停止] ボタンを押します。[録音] ボタンのランプが消え、録音したトラックのランプが緑に点灯、[曲番/小節] カウンターに録音した曲番が表示され、停止します。



曲番表示に戻ったら、再び [録音] ボタンを押して、別の空いているトラックに録音して重ねていくことができます。

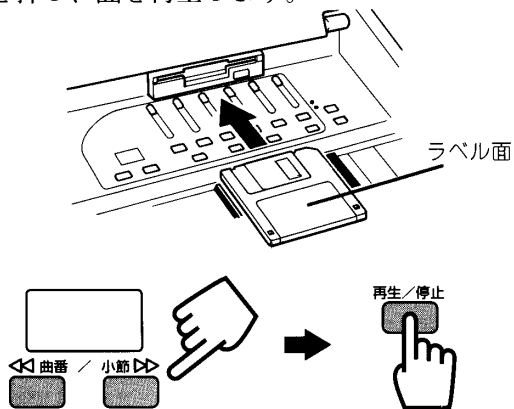
※ 録音終了時、データをフロッピーに書き込むまでの間、[曲番/小節] カウンターに「r E c」が表示されます。このとき、リズムなどの操作はできません。



■曲の途中から録音する場合（パンチイン録音）

1. 曲を再生します。

録音したい曲のフロッピーディスクをディスクドライブへ差し込み、[曲番/小節] ボタンの [◀◀] [▶▶] で曲番を選択、[再生/停止] ボタンを押し、曲を再生します。



※ 曲の途中から録音している時は、[再生/停止] ボタンを押してもメトロノームのカウントは鳴りません。

5. 終了

録音を終了する時は [録音] ボタンまたは [再生/停止] ボタンを押します。[録音] ボタンのランプが消え、録音したトラックのランプが緑に点灯、[曲番/小節] カウンターに録音した曲番が表示され、停止します。

※ 録音終了時、データをフロッピーに書き込むまでの間、[曲番/小節] カウンターに「rEc」が表示されます。この時、リズムなどの操作は一切できません。

2. 録音位置の決定

録音したいところで [一時停止] ボタンを押して、録音開始位置を決めます。[一時停止] ランプが点滅します。



演奏データの消去のしかた

1 曲すべてを消去する場合

P.21「曲を最初から録音する場合」の 1.2. の操作で消去する曲を選択します。録音準備の時に [MIDI] ボタンを押しながら [録音] ボタンを押すと、全部のパートランプが赤に点灯して、カウンターに「r r r」を表示します。

[再生/停止] ボタンを押すと 2 小節分のメトロノームが鳴ります。カウンターに「1」と表示されるまで鍵盤を弾かず、その後 [再生/停止] ボタンを押すと曲が消去されます。

3. 録音準備

[録音] ボタンを押し、録音待機にします。[録音] ボタンと選択したパートのランプが赤に点灯します。（パート選択は P.22 の録音パート選択をご覧ください）



各パートを消去する場合

P.21～P.22「曲を最初から録音する場合」の 1.～4. の操作で消去するパートを選択します。

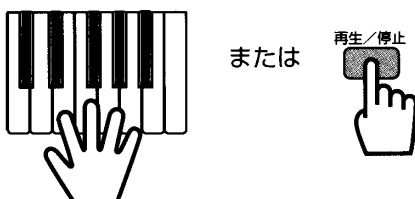
[再生/停止] ボタンを押すと 2 小節分のメトロノームが鳴ります。カウンターに「1」と表示されるまで鍵盤を弾かず、その後 [再生/停止] ボタンを押すと選ばれたパートが消去されます。

※ パート 6 はリズムトラックのため、パンチイン録音はできません。

※ パート 5 を消去する場合は、改めてトラックの選択をしてから消去をはじめてください。[パート 5] を押しながら曲番/小節の [◀◀] [▶▶] ボタンを押して消去したいトラックを選びます。

4. 録音

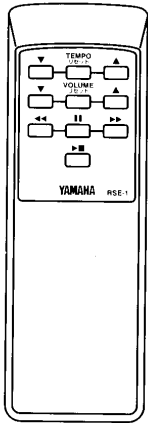
鍵盤を弾き始めるか、[再生/停止] ボタンを押すと、曲が再び再生され、演奏を聞きながら録音ができます。



リモコン操作について

付属のリモコンでディスクレコーダーの基本的な操作ができます。

リモコン各部の機能



Ⓐ ディスクの再生

[▶■] を押すとディスクの再生・停止ができます。

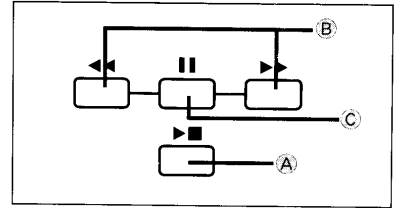
Ⓑ ディスクの早送り、早戻し

再生中は[▶▶] ボタンを押すとディスクの早送りができ、[◀◀] ボタンを押すとディスクの早戻しができます。

※ 停止中は曲番選択として操作できます。

Ⓒ ディスクの一時停止／解除

[■] ボタンを押すと、ディスクの一時停止ができます。

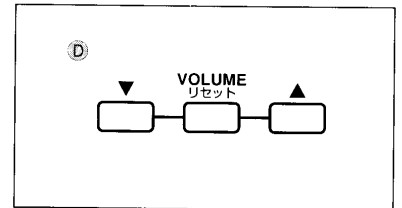


Ⓓ 全体音量の調節

VOLUME [▼] または [▲] ボタンで全体音量が調節できます。[▲] ボタンを押すと音が大きくなり、[▼] ボタンを押すと音が小さくなります。

※ VOLUME [リセット] ボタンを押すと、リモコンを使う前に設定した音量に戻ります。

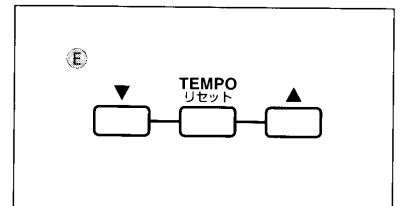
※ 再生／打楽器音量レバーが一番右の場合は、それ以上音を大きくすることはできません。



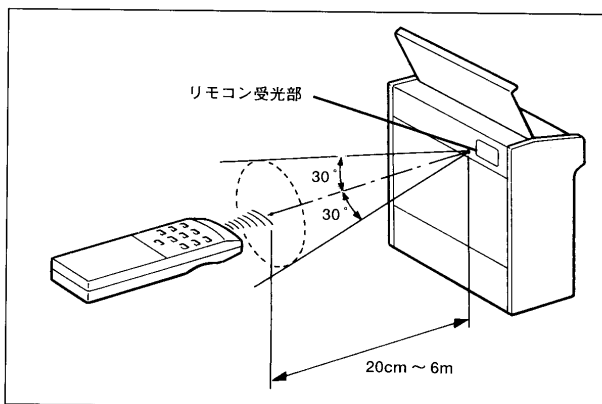
Ⓔ リズムテンポの変更

TEMPO [▼] または [▲] ボタンでリズムの速さが調節できます。[▲] ボタンを押すとテンポが速くなり、[▼] ボタンを押すとテンポが遅くなります。

※ TEMPO [リセット] ボタンを押すと、リモコンを使う前に設定したテンポに戻ります。



リモコンの使用範囲



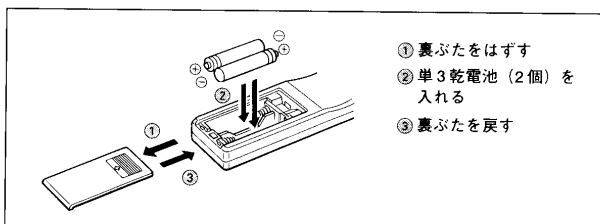
リモコン用乾電池の交換時期

リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

リモコン取扱上のご注意

- 受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。
- 受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。照明または製品本体の向きを変えてください。
- 他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

乾電池の入れかた



- ① 裏ぶたをはずす
- ② 単3乾電池（2個）を入れる
- ③ 裏ぶたを戻す

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを表すどおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用したり、種類のちがう乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池が使えなくなったり、リモコンを長い間使わないときは、乾電池を取り出してください。万一液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

MIDIについて

●MIDIとは・・・?

学校用オルガンSE-7000には、先進のエレクトロニクス楽器ならではの楽しみ方のできるMIDI端子がついています。このMIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interface（ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス）を略したもので、電子楽器同士をMIDIケーブルで接続し、音程や音の長さといった演奏の情報などをお互いに交換するためのものです。また、MIDIは世界の電子楽器の統一規格ですから、どこのメーカーの製品でも、MIDI端子がついていれば演奏情報の交換をすることができます。

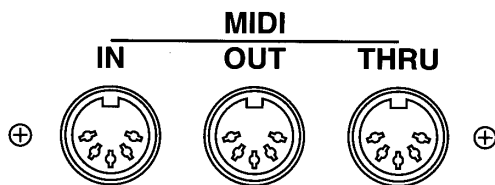
●接続方法について

SE-7000のMIDI端子には、OUT端子（送信側）、IN端子（受信側）、THRU端子があります。

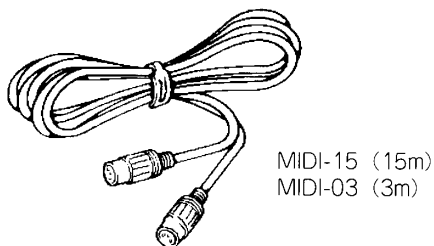
接続は、専用のMIDIケーブルを使いますが、オーディオのDINケーブルと酷似していますので注意してください。なお、オーディオのDINケーブルをMIDI端子には絶対接続しないでください。故障の原因になります。

SE-7000から演奏の情報を送る場合はOUT端子に、情報を受けてSE-7000の音源を使って音をだす場合はIN端子に接続してください。（MIDIを使って情報交換できるのは、あらかじめMIDI端子をそなえた機器に限られます。）

MIDI IN/OUT 端子

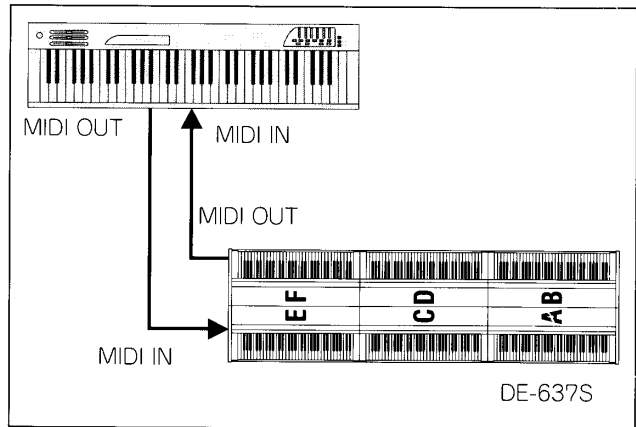


接続に使う MIDI ケーブル



●楽しみ方の例

SE-7000 でアンサンブルオルガン DE-637S の演奏を録音・再生



SE-7000 とアンサンブルオルガン DE-637S の MIDI OUT、MIDI IN を接続すれば、SE-7000 で DE-637S の録音・再生ができます。

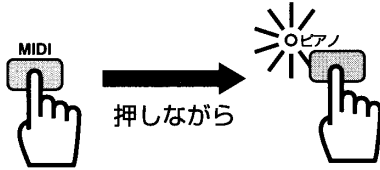
図のように SE-7000 の MIDI IN と DE-637S の MIDI OUT、SE-7000 の MIDI OUT と DE-637S の MIDI IN を MIDI ケーブルで接続します。

※ SE-7000 で DE-637S の演奏を再生する場合は、必ず SE-7000 の MIDI OUT と DE-637S の MIDI IN の両方をつないでください。両方がつながっていないと、再生する音色が変わります。

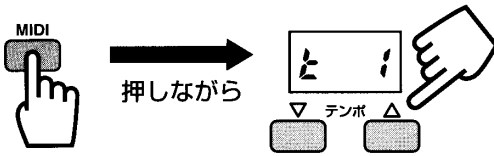
6人のオルガンの演奏をSE-7000のトラックに録音することができます。（詳しくはP.22の録音パート選択をご覧ください）

● MIDI 送信チャンネルの設定

[MIDI] ボタンを押しながらパネル音色ボタン [ピアノ] を押してください。[ピアノ] のランプが点灯し、MIDI送信チャンネル設定モードになります。



[MIDI] ボタンを押しながらテンポ [▼] または [▲] ボタンを押すと、チャンネルが変更できます。



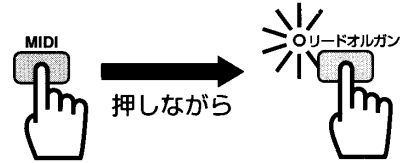
- ※ [MIDI] ボタンを押しながらテンポ [▼] または [▲] を同時に押すと、MIDI送信チャンネル1に戻ります。
- ※ 電源 ON 時はチャンネル 1 に設定されています。

● MIDI クロック外部／内部の選択

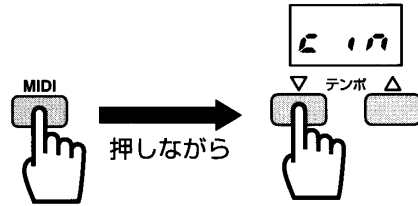
クロックとは、数台の電子楽器をMIDIで接続し再生、録音するときに基本となるテンポのことです。

内蔵クロックで演奏するか、他の楽器のクロックに合わせて演奏するか設定できます。

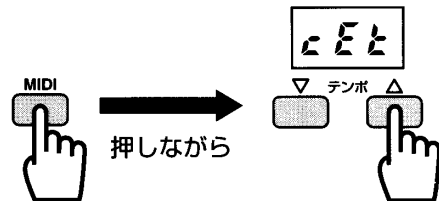
[MIDI] ボタンを押しながらパネル音色「リードオルガン」を押してください。「リードオルガン」のランプが点灯し、MIDIクロック設定モードになります。[MIDI] ボタンを押しながらテンポ [▼] または [▲] ボタンを押すと、クロックの外部／内部の選択ができます。



- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ [▼] を押すと、MIDIクロック内部が選べます。[テンポ] カウンターに「c i n」と表示します。



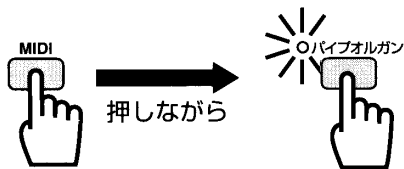
- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ [▲] を押すと、MIDIクロック外部が選べます。[テンポ] カウンターに「c E t」と表示します。



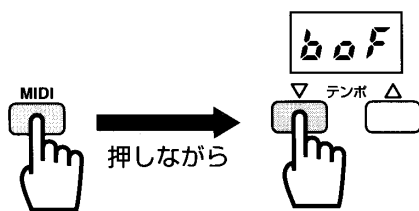
- ※ MIDIクロックを外部にした場合、MIDIクロックが入力されないと録音／再生はできません。
- ※ 電源 ON の時は、MIDIクロック内部に設定されています。

●ブレスコントロール受信のON/OFF

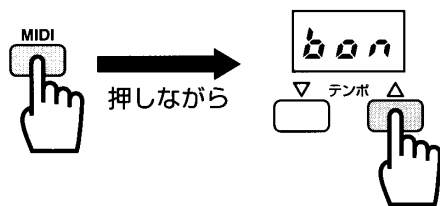
[MIDI] ボタンを押しながらパネル音色「パイプオルガン」を押してください。「パイプオルガン」のランプが点灯し、ブレスコントロール受信設定モードになります。さらに [MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▼] または[▲] を押すと、ブレスコントロール受信のON/OFFの切り替えができます。



- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▼]を押すとブレスコントロール受信がOFFになり、[テンポ]カウンターに「b o f」と表示します。



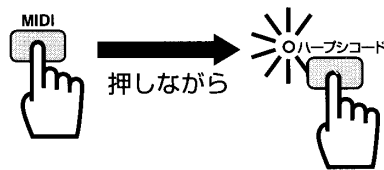
- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▲]を押すとブレスコントロール受信がONになり、[テンポ]カウンターに「b o n」と表示します。



- ※ ブレスコントロール受信がONの場合、MIDIからのブレスコントロール情報をエクスプレッション情報として変換します。
- ※ 電源ON時は、OFFに設定されています。

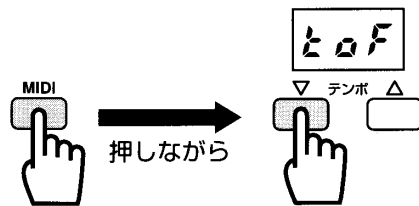
●鍵盤トランスポーズのON/OFF

[MIDI] ボタンを押しながらパネル音色「ハーブシコード」を押してください。「ハーブシコード」のランプが点灯し、鍵盤トランスポーズ設定モードになります。[MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▼]または[▲]を押すと、移調のON/OFFができます。

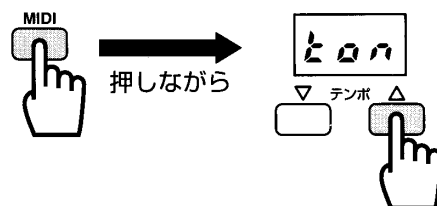


- ※ ディスクレコーダーで合唱の伴奏を再生中、歌に合わせて音程を半音下げると、オルガンの鍵盤の音も音色も半音下がります。

- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▼]を押すと鍵盤トランスポーズがOFFになり、[テンポ]カウンターに「t o f」と表示します。



- [MIDI] ボタンを押しながらテンポ[▲]を押すと鍵盤トランスポーズがONになり、[テンポ]カウンターに「t o n」と表示します。



- ※ 鍵盤トランスポーズがONの時は、ディスクレコーダーで再生中に移調レバーで音程を上下すると、鍵盤の音程も上下します。
- ※ 鍵盤トランスポーズがOFFの場合、鍵盤の音程は移調には影響しません。
- 電源ON時の、鍵盤トランスポーズは、ONに設定されています。

エラーメッセージについて

[曲番/小節] カウンターにエラーの内容が表示されます。次の表でエラー内容を確認し、必要に応じて処置を行ってください。

エラーメッセージ

表示	原因	処置
dEr	<ul style="list-style-type: none"> ● フォーマットされていないディスクが挿入されています。 ● フォーマットの異なるディスクが挿入されています。 (2HD:1.2M、2DD:640k 2DDでフォーマットした2HDのディスク〔SE-5000、SDX2000のディスクなど〕) 	<ul style="list-style-type: none"> ● フォーマットしてください。 (フォーマットを行うと録音済みのデータは消えます)
PrO	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生専用ディスクに録音しようとしています。 ● ディスク裏面のツメが録音不可側(プロテクト側)にセットされているディスクに録音しようとしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 再生専用ディスクには録音できません。 別のディスクにかえてください。 ● ディスクのツメを録音可能側に変更してください。
FUL	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスクのメモリー容量がなくなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しいフォーマットしたディスクを交換してください。
Err	<ul style="list-style-type: none"> ● MIDIデータ受信中に問題が起きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ● MIDI端子にケーブルをしっかりと差し込んでください。

故障とお考えになる前に

故障ではないかとお思いになったら、下記の事項をご確認ください。それでも正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから外して、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここが原因	こうすればOKです
音がまったく出ない。	エクスプレッションペダルが踏み込まれていない。	適切な音量にセットしてください。(P.7)
時々、ガリッとかポツンという雑音が入る。	ごく近くで電気器具の電源をON/OFFしたり、電気ドリルなどを使っている。	原因と思われる電気器具からなるべく離れたコンセントを使ってください。
ラジオやテレビなどに雑音が入る。	本機のごく近くでラジオやテレビなどを使っている。	なるべく離してお使いください。
音が割れる。 (共鳴する、あるいはビリつく)	オルガンの音は持続音が多いため周囲の戸棚、窓ガラス、その他の器物に共鳴して音が割れて聞こえることがあります。	音量を小さくするか共鳴物を取り除いてください。(P.7)
録音できない。	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクが正しく差し込まれていない。 • フォーマットされていない。 • フロッピーディスクの誤消去防止のツメが保護側になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクを正しく差し込んでください。(P.15) • フォーマットしてください。(P.15) • フロッピーディスクのツメを非保護側にしてください。(P.15)
再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 録音されていない曲番を選択した。 • 消去済みの曲を再生しようとしている。 • ディスクのフォーマットが違う。 • MIDIクロックが外部になっている。 • フォーマット0以外のスタンダードMIDIファイルを再生しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> • 録音されている曲番を選択し直してください。(P.17) • MIDIクロックを内部にしてください。(P.26) • スタンダードMIDIファイルのフォーマット1または2は再生できません。
ディスクの曲順が変わってしまった。	パソコンや他のディスクドライブ付き機器でファイルを追加、編集、削除した場合に起こることがあります。	

付 録

●音色一覧表

パネル音色

音色番号	音色名
1	ピアノ
2	リードオルガン
3	パイプオルガン
4	ハーブシコード

音色番号	音色名
5	グロックン
6	箏
7	フルート
8	オーボエ

音色番号	音色名
9	クラリネット
10	トランペット
11	ホルン
12	チューバ

音色番号	音色名
13	バイオリン
14	ストリングス
15	コントラバス
16	ピッチカートバス

DOC 音色

音色番号	音色名
1	プラス
2	トランペット
3	フレンチホルン
4	サクソフォン
5	クラリネット
6	オーボエ
7	フルート1
8	アコーディオン
9	ストリングス
10	バイオリン
11	フルオルガン
12	ジャズオルガン1
13	ピアノ
14	エレクトリックピアノ1
15	ハーブシコード
16	チェレスタ

音色番号	音色名
17	ビブラフォン
18	マリンバ
19	シンセプラス
20	シンセクリスタル
21	ティンパニ
22	ガットギター1
23	ジャズギター1
24	ロックギター1
25	アップライトベース
26	エレキベース
27	スラップベース
28	シンセベース
29	ミュートトランペット
30	ハーモニカ
31	コーラス
32	シンセウッド

音色番号	音色名
33	シンセストリングス
34	シンセコーラス
35	ピアノ (メロウ)
36	エレクトリックピアノ2
37	ピアノ (ブライト)
38	フォークギター
39	バンジョー
40	ピッチカート
41	ハーブ
42	クラピトーン
43	ロックギター2
44	ミュートギター
45	アップライトベース(メロウ)
46	ジャズギター2
47	ポッププラス
48	ストリングス (メロウ)

音色番号	音色名
49	バイオリン (ハード)
50	パイプオルガン
51	サクソフォン (メロウ)
52	エレキベース (ヘビー)
53	フルート2
54	バスーン
55	チェンバーストリングス
56	ジャズオルガン2
57	ディストーションギター
58	コスミック1
59	コスミック2
60	コスミック3
61	オーケストラヒット

GM 音色

分類	音色番号	音色名
ピアノ系	1	グランドピアノ
	2	ブライトピアノ
	3	エレクトリックグランドピアノ
	4	ホンキートンクピアノ
	5	エレクトリックピアノ1
	6	エレクトリックピアノ2
	7	ハーブシコード
	8	クラビ
クロマチックパーカッション系	9	チェレスタ
	10	グロックンシュピール
	11	ミュージックボックス
	12	ビブラフォン
	13	マリンバ
	14	シロフォン
	15	チューブラーベル
	16	ダルシマー
オルガン系	17	ドローパーオルガン
	18	パーカッシブオルガン
	19	ロックオルガン
	20	チャーチオルガン
	21	リードオルガン
	22	アコーディオン
	23	ハーモニカ
	24	タンゴアコーディオン
ギター系	25	ナイロンギター
	26	スチールギター
	27	ジャズギター
	28	クリーンギター
	29	ミュートギター
	30	オーバードライブギター
	31	ディストーションギター
	32	ギターハーモニクス

分類	音色番号	音色名
ベース系	33	アコースティックベース
	34	フィンガーベース
	35	ピックベース
	36	フレットレスベース
	37	スラップベース1
	38	スラップベース2
	39	シンセベース1
	40	シンセベース2
ストリングス系	41	バイオリン
	42	ピオラ
	43	チェロ
	44	コントラバス
	45	トレモロストリングス
	46	ピッチカートストリングス
	47	ハーブ
	48	ティンパニ
アンサンブル系	49	ストリングスアンサンブル1
	50	ストリングスアンサンブル2
	51	シンセストリングス1
	52	シンセストリングス2
	53	コーラス アー
	54	ボイス ウー
	55	シンセボイス
	56	オーケストラヒット
ブラス系	57	トランペット
	58	トロンボーン
	59	チューバ
	60	ミュートトランペット
	61	フレンチホルン
	62	プラスセクション
	63	シンセプラス1
	64	シンセプラス2

分類	音色番号	音色名
リード系	65	ソプラノサクソフォン
	66	アルトサクソフォン
	67	テナーサクソフォン
	68	バリトンサクソフォン
	69	オーボエ
	70	イングリッシュホルン
	71	バスーン
	72	クラリネット
パイプ系	73	ピッコロ
	74	フルート
	75	リコーダー
	76	パンフルート
	77	ボトル
	78	尺八
	79	ホイッスル
	80	オカリナ
シンセリード系	81	矩形波リード
	82	ノコギリ波リード
	83	カリオペリード
	84	チフリード
	85	チャランリード
	86	ボイスリード
	87	5度リード
	88	ベース&リード
シンセパッド系	89	ニューエイジパッド
	90	ウォームパッド
	91	ポリシンセパッド
	92	クワイアパッド
	93	ポウドパッド
	94	メタリックパッド
	95	ヘイロパッド
	96	スイープパッド

分類	音色番号	音色名
シンセエフェクト系	97	雨
	98	サウンドトラック
	99	クリスタル
	100	アトモスフィア
	101	ブライトネス
	102	ゴプリン
	103	エコー
	104	サイエンスフィクション
エスニック系	105	シタール
	106	バンジョー
	107	三味線
	108	箏
	109	カリンバ
	110	バグパイプ
	111	フィドル
	112	シャナイ
パーカッション系	113	ティンクルベル
	114	アゴゴ
	115	スチールドラム
	116	ウッドブロック
	117	和太鼓
	118	メロディックタム
	119	シンセドラム
	120	リバースシンバル
サウンドエフェクト系	121	フレットノイズ
	122	ブレスノイズ
	123	海辺
	124	鳥のさえずり
	125	電話のベル
	126	ヘリコプター
	127	拍手
	128	銃声

●リズム音源キーコード対応表

発音数 (最大 32 音)

鍵盤名	打楽器名
C1	[シンバルダンプ]
F#1	スネア ブラッシュロール
G1	—
G#1	ハイハット クローズ ヘヴィー
A1	—
A#1	クラッシュシンバル ライト
B1	バスドラム ライト
C2	スネアドラム+リムショット ヘヴィー
C#2	ライドシンバル カップ
D2	スネアドラム リム ライト
D#2	—
E2	—
F2	バスドラム
F#2	リム ショット
G2	スネアドラム ヘヴィー
G#2	ブラッシュ ショット
A2	スネアドラム ライト
A#2	ハイハットペダル
B2	スネアドラム エコー
C3	タム 4
C#3	ハイハット クローズ
D3	タム 3
D#3	ハイハット オープン
E3	タム 2
F3	タム 1
F#3	ライドシンバル
G3	シンセタム 3
G#3	クラッシュシンバル
A3	シンセタム 2
A#3	クラッシュシンバル
B3	シンセタム 1

鍵盤名	打楽器名
C4	コンガ ロー
C#4	カバサ
D4	コンガ ハイ
D#4	メトロノーム
E4	ボンゴ ハイ
F4	ティンバル ロー
F#4	クラベス
G4	ティンバル ハイ
G#4	カスタネット
A4	クイーカ ロー
A#4	カウベル
B4	クイーカ ハイ
C5	ハンドクラップ
C#5	アゴゴ ロー
D5	—
D#5	アゴゴ ハイ
E5	ボンゴ ロー
F5	クイーカ ロー
F#5	タンバリン
G5	クラッシュシンバル
G#5	トライアングル クローズ
A5	スネア ブラッシュロール
A#5	トライアングル オープン
B5	—

● MIDI インプリメンテーションチャート

YAMAHA [学校用オルガン — Keyboard part]

Model SE-7000 MIDI Implementation Chart

Date:01-MAR-1997
Version: 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 1 - 16	1 - 16 ×	
Mode	Default Messages Altered	3 × *****	3 × ×	
Note Number	True Voice	36 - 96 *****	0 - 127	
Velocity	Note ON Note OFF	○ 9nH, v=1 - 127 × 9nH, v=0	○ v=1 - 127 ×	
After Touch	Key's Ch's	× ×	○ *1 ○ *1	
Pitch Bend		×	○	
Control Change	0, 32 1, 5, 7, 10, 11 6, 38 64 - 67 71 - 74 84 91, 93, 94 96 - 97 98 - 99 100 - 101 120 121	× 1, 7, 11 ○ 5, 10 × × 64 ○ 65 - 67 × × × 91 ○ 93, 94 × × × × × ×	○ *1 ○ ○ ○ ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ *1 ○ ○	Bank Select Data Entry Sound Controller RPN Inc, Dec NRPN LSB, MSB RPN LSB, MSB All Sound Off Reset All Cntrls
Prog Change	True #	○ 0 - 127 *****	○ 0 - 127	
System Exclusive		○	○	
Common	Song Pos. Song Sel. Tune	× × ×	× × ×	
System Real Time	Clock Commands	× ×	× ×	
Aux Messages	Local ON/OFF All Notes OFF Active Sense Reset	× × ○ ×	× ○ ○ ×	
Notes		*1 XG mode only		

Mode 1: OMNI ON, POLY
Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO
Mode 4: OMNI OFF, MONO

○: YES
×: NO

YAMAHA [学校用オルガン—Sequencer part]
 Model SE-7000 MIDI Implementation Chart

Date:01-MAR-1997
 Version: 1.0

Function		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Channel	Default Changed	1 - 16 ×	1 - 16 ×	
Mode	Default Messages Altered	× × *****	× × ×	
Note Number	True Voice	0 - 127 *****	0 - 127	
Velocity	Note ON Note OFF	○ 9nH, v=1 - 127 × 9nH, v=0	○ v=1 - 127 ×	
After Touch	Key's Ch's	○ ○	○ ○	
Pitch Bend		○	○	
Control Change	0, 32 1, 5, 7, 10, 11 6, 38 64 - 67 71 - 74 84 91, 93, 94 96 - 97 98 - 99 100 - 101 120 121	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	Bank Select Data Entry Sound Controller RPN Inc, Dec NRPN LSB, MSB RPN LSB, MSB All Sound Off Reset All Cntrls
Prog Change	True #	○ 0 - 127 *****	○ 0 - 127	
System Exclusive		○	○	
Common	Song Pos. Song Sel. Tune	× × ×	× × ×	
System Real Time	Clock Commands	○ ○	○ ○	*1
Aux Messages	Local ON/OFF All Notes OFF Active Sense Reset	× ○ ○ ×	× × × ×	
Notes	*1 Receive clock at MIDI sync mode.			

Mode 1: OMNI ON, POLY
 Mode 3: OMNI OFF, POLY

Mode 2: OMNI ON, MONO
 Mode 4: OMNI OFF, MONO

○ : YES
 × : NO

付
録

保証とサービスについて

1. 保証

オルガンの保証は、保証書によりご購入日から満1カ年です。尚、現金、クレジットなどによる保証の区別はいたしません。また、保証は日本国内のみ有効といたします。

2. 保証書

オルガンの納入調整サービスの際、技術者が保証書内へ必要事項記入のうえ、発行致しますので記載事項をご確認ください。

3. 保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社がオルガンをご購入いただいたお客様にご購入の日から向う1カ年の無償サービスをお約束申し上げるものです。万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費をいただくことがございますので、必要に応じていつでもご提示いただけますよう保管してください。

また、後々のサービスに際しての機種判別やサービス依頼店の確認にご利用いただけますし、調整記録を記入する欄もございますので、保証期間が過ぎましても大切に保管ください。

4. 納入点検調整サービス

オルガンをお納めさせていただきますと、楽器店の技術者が楽器のご説明かたがたオルガンを最良の状態にするよう点検調整にお伺い致します。

お求めのオルガンについて、ご不明の点およびお聞きになりたい事がありましたら、その節にお申しつけください。

5. 保証期間中のサービス

1. 保証期間中に万一故障が発生した場合には、お買い求めいただいた楽器店にご連絡いただきますと楽器店またはヤマハの技術者が調整修理にお伺いします。
2. 保証書は、サービスにお伺いした時に今後貴重な資料とするため一時技術者がお預りさせていただきます。お預りした保証書は、弊社サービスセンターに送られ、必要事項を記録した後直接お客さまにご返送申し上げます。この間、約1週間～10日間程度を要しますが、ご心配なくお待ちくださいようお願い申し上げます。

6. 保証期間後のサービス

満1カ年の保証期間が切れますとサービスは有料となりますが、引続き責任をもってサービスをさせていただきます。補修用性能部品（製品本来の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は8年となっております。

7. サービスをご依頼になる前に

1. コンセントに電気が来ているかどうか、他の電気製品を接続してお確かめください。
2. ご依頼いただいたサービスにお伺いした際、故障でないような場合には、点検代と出張経費などの実費をいただきます。

8. サービスのお約束について

1. できるだけお伺いする日時を事前にお約束させていただきます。
2. 万一お約束した日時がご都合の悪い時には、できるだけ早くサービスをご依頼されたお店にご連絡ください。
3. サービスご依頼後、日時が経過してもなお技術者がお伺いしない場合はお手数でも右記サービスセンターまでご連絡ください。責任をもって処理させていただきます。

●ヤマハサービスネットワーク

全国のヤマハ特約楽器店と下記サービスセンターが責任をもってアフターサービスを行っております。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスセンター	〒 064	札幌市中央区南十条西 1-1-50 ヤマハセンター内	Tel. 011-513-5036
仙台サービスセンター	〒 983	仙台市若林区卸町 5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	Tel. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒 211	川崎市中原区木月 1184	Tel. 044-434-3100
東京サービスステーション※ (※お持ち込み修理のみのお取り扱い)	〒 108	東京都港区高輪 2-17-11	Tel. 03-5488-6625
浜松サービスステーション	〒 435	浜松市上西町 911 ヤマハ（株）宮竹工場内	Tel. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒 454	名古屋市中川区玉川町 2-1-2 ヤマハ（株）名古屋流通センター 3F	Tel. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒 565	吹田市新芦屋下 1-16 ヤマハ（株）千里丘センター内	Tel. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒 760	高松市丸亀町 8-7 （株）ヤマハミュージック神戸 高松店内	Tel. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒 731-01	広島市安佐南区西原 6-14-14	Tel. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒 812	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	Tel. 092-472-2134
[本 社] カスタマーサービス部	〒 435	浜松市上西町 911 ヤマハ（株）宮竹工場内	Tel. 053-465-1158

■管教育楽器に関するお問い合わせ窓口

北海道支店	〒 064	札幌市中央区南 10 条西 1-1-50 ヤマハセンター内	Tel. 011-512-6113
仙台支店	〒 980	仙台市青葉区大町 2-2-10	Tel. 022-222-6146
東京支店	〒 108	東京都港区高輪 2-17-11	Tel. 03-5488-1672
関東支店	〒 108	東京都港区高輪 2-17-11	Tel. 03-5488-1689
名古屋支店	〒 460	名古屋市中区錦 1-18-28	Tel. 052-201-5166
大阪支店	〒 542	大阪市中央区南船場 3-12-9 心斎橋プラザビル東館	Tel. 06-252-5341
広島支店	〒 730	広島市中区紙屋町 1-1-18 ヤマハビル	Tel. 082-244-3771
九州支店	〒 812	福岡市博多区博多駅前 2-11-4	Tel. 092-472-2155
国内楽器営業本部 管教育楽器営業部 教育楽器営業課	〒 430	浜松市中沢町 10-1	Tel. 053-460-2405

YAMAHA
ヤマハ株式会社